

虎兒虎兒

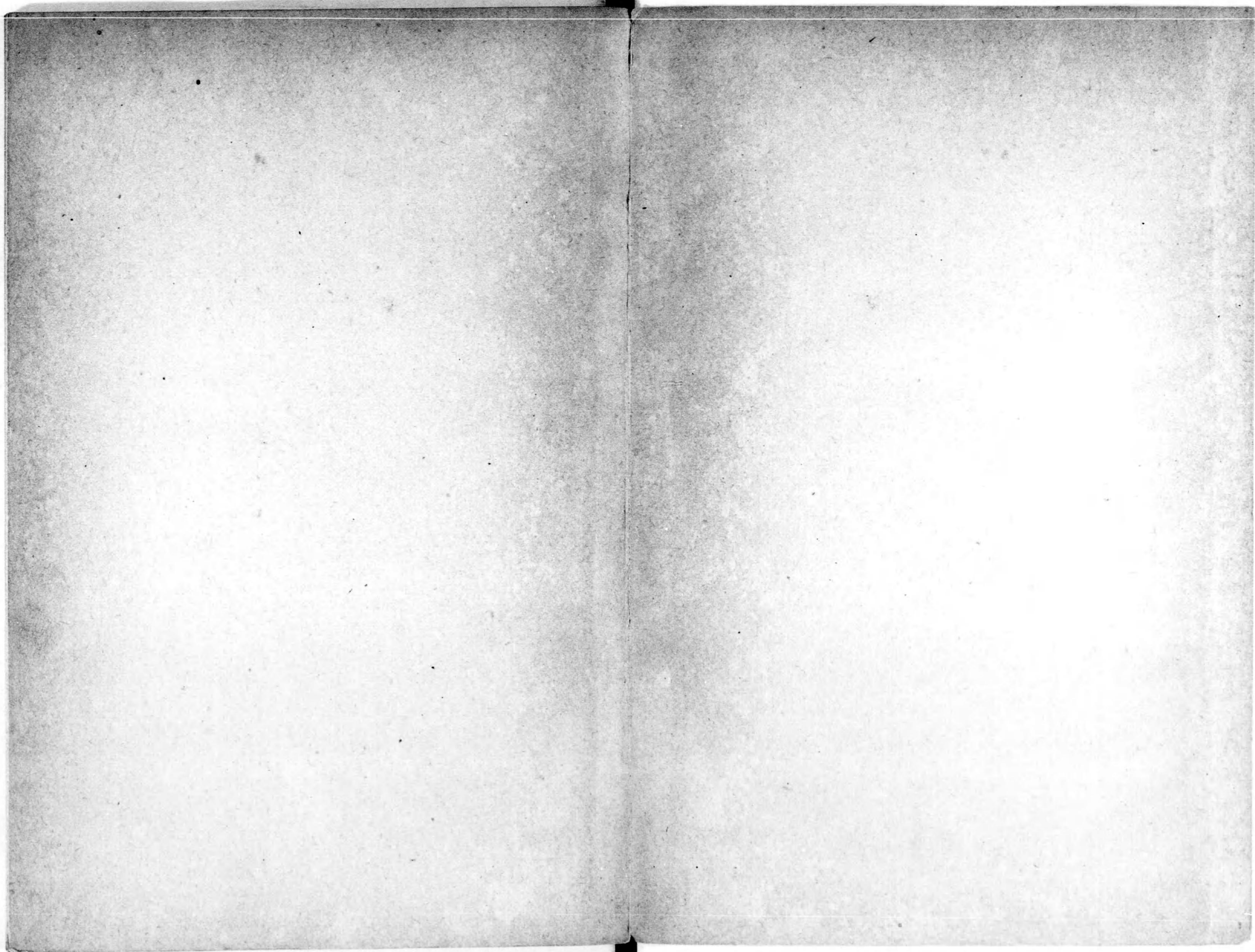
敬文館發行



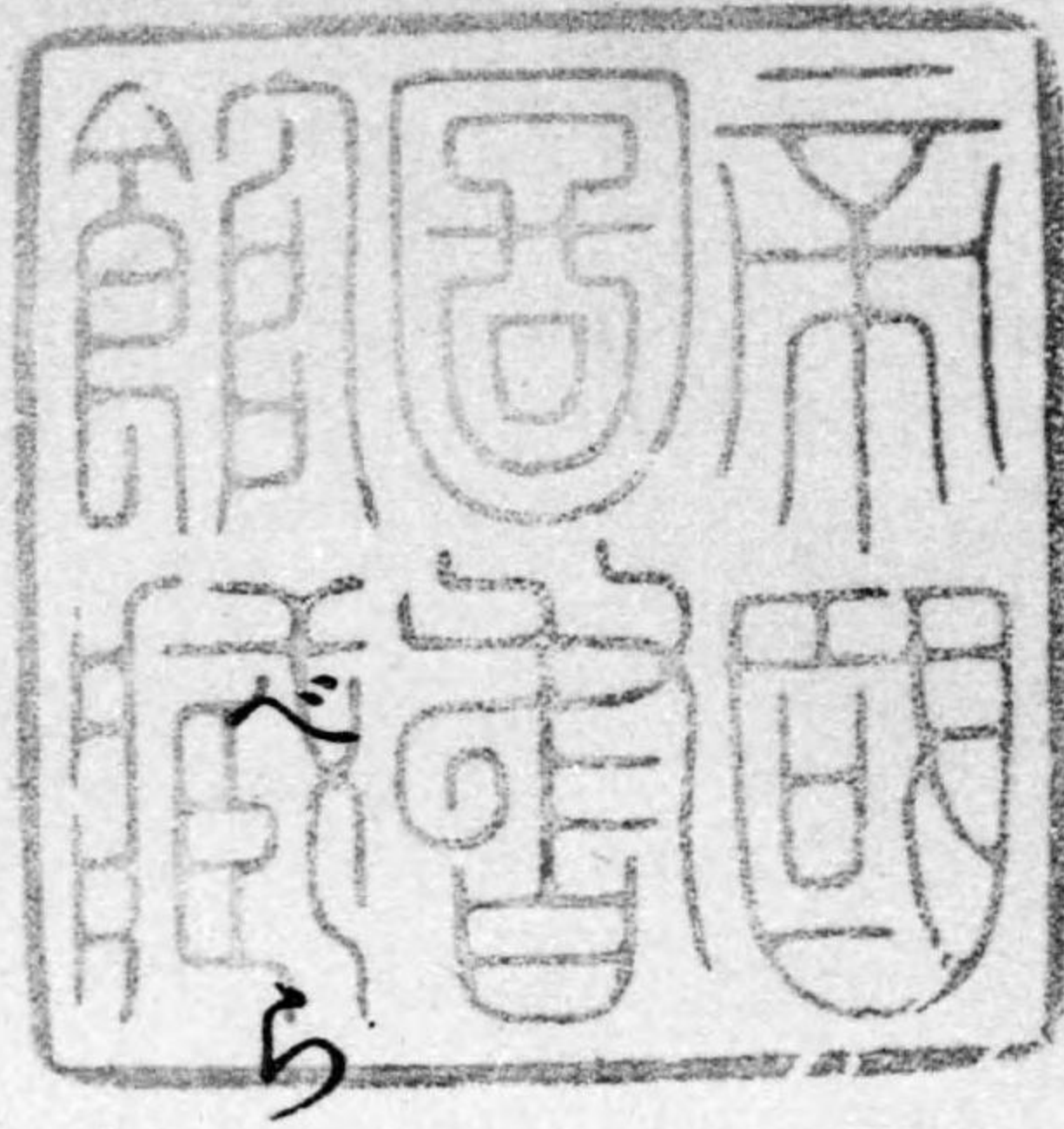
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10<sup>18m</sup> 1 2 3 4 5

始





特102  
279



ん

め

え



## 序

『べらんめえ』は、江戸兒の喝聲である。満腔モヤモヤたる不平が爆裂するとき、先づ此の一喝が發せられるのである。

不平は不遇の境に於て蓄積せられる。世の中が若し萬事好都合に運ぶものであつたならば——朝に貪官なく、野に遺賢なく、才子は佳人、駿馬は勇士と有らゆる適材おのゝく、適處を得て、天下に何にも不

平の聲は起りようが無い——移民排斥、婦人運動、支那革命、清浦内閣流産、常磐會撲滅、墾國皇儲暗殺、滿鐵紛擾、文學博士落選、……などいふ様な、厭ふ可き悲むべき、恚るべき、嗤ふ可きことは、絶えて無かるべく、然すれば、新聞は號外も發せず、歴史は唯年紀を擧ぐるのみに止つて、泰平無事一向おもしろくないことになつて了ふであらう。

あゝ、兎角天下に事あれがし、人生宜しく不遇なるべし、不遇にして初めて不平が起る、不平が起つて反

撥が企てられ、努力が生ずる、此に於てか、才人を揮ひ、智者智を施し、勇士勇を揮ふ、かくて蹈めしめた足は深い足跡を印する、それでこそ生き甲斐があるといふものではあるまいか。

本書の大部分は、著者と予とが、同じ社に僚友であつた間に於て書かれたものである。其頃の悠々君は法學者たり、哲學者たり、文學者たる其の本領を發揮すべき地位に置かれてなかつた、電報翻譯か何か、まことに張合の無い仕事に齷齪として居たのであ

つた。

本書は不遇の産物である。

予は著者の更に大に不遇にして、更に大に不平を蓄へ更に大にタンカを切らんことを祈るものである。

大正三年初夏

澁川 玄 耳

## 自序

社會の木鐸を以て任じて居た新聞記者の時代は経過した。彼等は今や如何にして新聞を作るべきかを研究しつゝある、純然たる技師となつてしまつた。如何にして大向ふを喜ばすべきかに、憂身を窺しつゝある、純然たる芝居役者となつてしまつた。

新聞記者は、今や全然新聞營業の奴隸となつてしまつた。普通教育の普及に伴ふ讀者の増加、並に各種新聞の激増に伴ふ競争の激甚は、其持主をして自

ら經營の困難を感ぜしむるの結果新聞も亦自ら一  
種の營業とならざるを得なかつた。これ實に已む  
を得ないことであらう。併しながら新聞記者は別  
に獨立の職責を有し、場合によつては、營業を超越し  
て、愚なる民衆を導くの覺悟がなくてはならぬ。多  
くの場合、普通の場合に於ては、新聞記者たるものは、  
固より營業に著眼して、筆を執らねばならぬ。併し  
ながら、かうする間にも、營業以外に立つて、寧ろ經營  
主と民衆に反抗する所の用意がなくてはならぬ。

二

然らざれば、新聞記者には生命がないと云つて可い、  
新聞記者でなくて、新聞屋と云つて可い。

新聞記者は今日主義を以て終始するものである。  
純然たる舊弊の江戸つ子其儘であつて、斷じて宵越  
の金を使はないものである。併しながら、舊弊の江  
戸つ子は最早絶滅して、上方贅六が日に増し其權威  
を揮はんとしつゝあるが如く、今日主義の新聞記者  
は、今日の状態には適應して繁榮するかも知れない  
が、來りつゝある明日の状態には適應せぬ。而して

三

生存競争場裡落伍者となるの運命を擔つて居る。

新聞記者としての余の生活や、決して短しとせぬ。而かも、余は終始如上の用意と覺悟とを怠らなかつたつもりである。

昨春の憲政擁護運動以來、新聞と新聞記者との價は頓に高まつた。何物にも殆ど權威なき現代に於て、新聞紙のみが、獨り此やうに權威を揮うに至つたのは、時代の要求に促がされたとは云ひ條、今日主義を捨て、明日主義を取るに至つた結果である。時代

を支配せんとする記者自身の要求、慾望から、明日主義を取るに至れば、新聞記者の權威は日ならずして王公を壓するに至るであらう。

兎にも角にも、余は日本の新聞記者が近時に至つて、自己の地位を自覺せると同時に、世人も亦之を認むるに至つたことを喜ばざるを得ぬ。

今日主義の新聞から云へば、こゝに集められた數編は、何等の價もない罐詰であるに相違ない。而かも、五箇年を経過したる今日に於て之を開いても、尙



味ふに足るべき一種の風味を有して居るのは、今日主義の新聞記者の生活中にも、明日主義を忘れなかつた余の用意の一端を示すものであつて、以て聊か誇とするに足るものがあらう。

若し夫れ思想と形式と一致せず、木に竹を接いだやうなべらんめえ語を以て、近代の思想を説明せんとしたのは、近代人の麻痺せる神経を刺戟せんとした、固よりあらずもがなの猪口才より出でたるもの、讀者冀くば此形式を以て内容を捨つる勿れ。

大正三年六月二十八日

名古屋に於て

悠々識

## 凡例

- 一、本編に蒐輯されたものは、主として、余が明治四十一年三三年の交、即ち朝日新聞記者であつた折、東西兩朝日新聞に掲載されたものであるが、『瓢然漫遊の記』は、信濃毎日新聞の主筆時代に、同紙に掲載されたものである。尙『現代人の婚姻』の後半も信濃毎日新聞に掲載されたものである。
- 一、『べらんめえ』一編は澁川玄耳君の賜物である。若し當時の東京朝日社同部長たる同君にして、之を同紙に掲載するとを奨励してくれなかつたらば、蓋し此一編は成らなかつたらう。茲に同君に對して、多大の感謝を表す。
- 一、本編の出版に關して、友情最も厚き横山健堂君が、多大なる斡旋を取られたことは、感謝に堪へぬ。併せて謝意を表す。

大正三年七月六日

新愛知新聞編輯局にて

著者識

べらんめえ目次

一 政治の嘘……………一  
二 自由放任主義……………四  
三 現代人の疲勞……………六  
四 現代人の婚姻……………九  
五 相撲と競技……………一九  
六 犯人状者……………二五  
七 一の近世的犯罪……………二七  
八 神田の伯母さん……………二七  
九 國際間の事大主義……………二九  
一〇 飄然漫遊の記……………二九

一 孤島の戀……………三三  
 二 ヲラの遺骨を葬る……………二六六  
 三 左ぎつちよ……………二七四  
 四 何處が面白い……………二八五

目次終

べらんめえ

法學士 桐生悠々著

政治の嘘

▲太郎の困却 (上)

から、政治、政治つてソナに政治を振廻すなよ。膽魂の小せえ奴は可哀相  
 に目をまはして了ふせ。俺だつて今ぢや舊弊の江戸つ子ぢやねえや。斯う見え  
 ても夫相應の學問はして居るし、西洋の書籍も少とやそこいらは窺て見たもん  
 だが、人間てえ奴の拵へたものに碌なものねえよ。嘘で固めたものばかりだ  
 其中でも政治と云ふ奴が一番嘘を吐きあがるから癪ぢやねえか。嘘と思ふなら  
 耳の垢をほちつて少しは俺の説教を聞きねえ。

政治の嘘

文明國の標本——斯う改まつて云ふのも畢竟は癩にさはるからさ、少しは齒が浮くかも知んねえが、まあ辛抱して聞きねえ——其文明國の標本たる一人の男、即ち當路の權勢と親類筋の關係があるでもなし、又夫等の人間を動かして特別な御取扱を受るやうな力を有つて居ねえ男を取擧へて來て、其男と國家との關係を吟味しねえ。固より何處の國のものとも名指しはしねえが、何でも文明國の人間と思へば可いのだ、國家が個人に與へて居る自由の程度と其自由を制限して居る形は、無論國によつて異つて居るがだ、其處のところは大概に見ても、これから先き俺の云ふことは、所謂近頃の文明國に於ける平均市民を一幅のパノラマに縮めたものなんだ。

此文明國の標本男——長いと面倒臭えから簡單に太郎と云はう——此太郎は既に學齡に達した。近い話が七歳になつた。が、六月生れだと云ふんで來年にならなければや學校に入れねえと來る、公共の教育を受くるのに何にも面倒臭い

ことはねえ筈だ、身體が丈夫で心も相應に發達して居れば六月生れだからつて正月生れの餓鬼と一緒にいろはを教はるに差支はねえ筈だ。ところが然うは可いねえ。近頃文部省令で二重學年制とか云ふものを拵へても可いと云ふ御布令が出た相だが、市町村では何だ角だと、難癖をつけて、其も實行され相にもねえ。實にくだらねえ區別をしたもんだ。コンナ鹽梅で太郎の餓鬼もまあまあ首尾よく學校へ入つて而して首尾よく學校を卒業したと思ひなせえ。ところが太郎め、不斷から小理窟を云ふことが好きだつたんで、其後或法律學校を卒業して直に辯護士にならうとした。ところがドッコイ然うは問屋で卸てくれねえ。辯護士になるには辯護士の試験を受けねばならぬと來たね。太郎め、ソクナくだらぬ商賣をするよりも靴屋になつて靴でも拵へたなら不恰好な窮窟な靴を拵へあがつて御客様の足に豆を出來す位が關の山だらうが、それでも靴屋になるには別に靴屋の試験と云ふものはねえで、自由に靴屋になれる。だがだ、

下手な法律の相談相手も下等な靴を造つて人の足に豆を出来るのも、人間に害を及ぼすことは同じことぢやないか。太郎は愈二十歳になつた、之から少し旅行でもして見聞を廣めようと思つて試したが、夫も可けねえ。徴兵と云ふ奴があつて、一旦緩急あらば義勇公に奉せねばならぬと来た。太郎は兵役に服して居る間閑暇と機会があつて、或若い女を見初た。太郎は兵隊仲間に似合ぬ、一寸高尚な所があつたんで、其情婦を臺處の隅にくすぶらして置くやうなけち臭いことはしなかつた。ならう事なら一緒に世帯を持たうと相談した。ところが太郎は兵隊だ、兵隊である間は女房を持つのは禁物と来た。兵隊が女房を持つたとして、別に他の權利を害する譯もなければ鐵砲を持つ力が減もしねえ。でも其兵隊服を脱ぐか、又は出世して大尉位にならなければ如何しても女房を持つことが出来ねえ。夫もいくらかの金をキツチリ小耳を揃へて其筋に納めなければ出来ねえといふんぢやねえか。太郎は暗礁だらけの此海を漸う巧に漕ぎ抜け

て今度は宿屋を開かうと思つた。ところがこれも其筋の許可がなくては可かぬと来た。其後太郎は種々の商賣を始めやうと思つたが、其度毎に同じい經驗を繰返したばかりだつた。或時太郎は家を普請しようと思つた。ところがこれも其筋の許可がなくてはならぬと来た。なる程家の普請は往來の妨げになることもあるから、其筋の許可を受けねばならぬのは當然だが、人の見えぬ、家宅侵入罪でも犯さねば入つて見るとの出来ねえ庭園の隅に家を建てようとしても、矢張り太郎は其筋の許可を得ねばならなかつた。或時太郎は料理屋を開業した恰好其折太郎は不眠症に罹つて居たので、ならうことなら徹夜店を開いて置かうとしたら、巡査が来て制規の時間には店を了へと叱られた。兎角するうち太郎の女房が子供を産んだ。而して子供に種痘をせぬと監督者に罰金が課せられると云ふ法律が出た。

▲太郎の困却 (中)

太郎は此外種々迷惑な目に逢つた。電車の通つて居ねえ要路の町に乗合馬車を差立てようとしたが、ソレも其筋の許可がなくては出来ねえと云はれた。市の公金で維持されて居る公園に、自然のまま、人手を入れねえ風雅な遊び場所を拵さへようとしたら、其筋からそれも雑草を刈らなくちや可かねえと叱られた。或時長途の徒歩旅行を想ひ立つて、七寸の草鞋に天下を蹂躙せんす勢ひ勇ましく旅立つたまでは可かつたが、間もなく巡査に出會した。其巡査が「其方の名は『職業は』『家族は』『旅行の目的は』なんてズンザイな口を利くから、賣言葉に買言葉だ。此方も此方でズンザイな口を利くと『一寸警察まで来い』だ。近隣の奴が太郎の庭園の或一部を自分の庭園のやうに垣で取り圍んだから、不届な奴ぢやと其筋に訴へた。罪跡は歴然たるものであるが、公判は六箇月間も開かれなう。相手が負けて、愈損害賠償と云ふ一段になると、相手は貧乏人で金

を有つて居ねえ。自分の庭園は舊々通太郎の手に戻つたが、この爲に費した時間と金とを併すと、裁判所の割出した損害よりも二十倍の損害を被つて居た。無論この爲に太郎はドレ程氣を揉んだり、腹を立てたりしたか知んねえが、ソイツは勘定に入らずにさ。太郎は子供の折からイヂメられ通しだつたから、コンナことには一向平氣で、ソイツは勘定に入れなかつたんだ。或時博物館で奈良朝時代の美しい人物畫を見た。其畫の人物が如何にも雅致のある衣服を着て居たんで、自分もこれと同様な衣服を着て市中を濶歩して居ると、異様な服装をして居ると云つて、家へ歸つて早速脱いで來いと叱られた。太郎は五六人親しい友達を有つて居たんで、其友達と時折會合する一の俱樂部を拵へて、現今の法律に對する不平論を闘はさうと想ひ立つた。ところが、巡査が俱樂部員の名簿を見せと云つて、ソレを引たくつて往つて置いてから、政治的の性質を帯びてる集會は其筋へ届出でなくては可かねえ、コレから以後コンナ會合はし

てはならぬと禁せられた。太郎も斯うなつては聊か片意地にならざるを得ねえ其處で今度は性懲りもなく、貯蓄銀行やうの共濟會を造らうと思ひ立つた。併しソレも許可がなくては可いねえと來た。コンナいさこさの間に太郎も到頭年を取つて、頭の髪が白くなつて來た。而して機嫌の能い折には『何に露西亞なんかはもつと痛いからな』なんて自分で自分を慰めては居たが、腹が立つた折には、英國人や米國人の自由を羨んだり、妬んだりして涙を翻して居た。無論太郎は洋行した覺のねえ人間だから、實際の處を見て來た譯でねえ。唯新聞などに然う書いて有のを讀んで涙を翻して居たんだ。處が、或日の事、太郎の女房が死つた。借老同穴と云ふ夫婦だもの、死んでも側を放すとが出来ねえんで、太郎は庭園の梅の樹の根に女房の死骸を埋めた。ソレが嫌疑の基で太郎は警察に拘引される、可愛い女房の死體は發掘されて解剖される、新聞は二號活字で盛に米國風の出鱈目な記事を満載して世間を騒がせると云ふ大騒動が始つた。

太郎も今ぢや可哀相に世の中に一人ぼつちになつちまつた。元氣の元の字もなくなつちまつた。ソレに座して食へば山も盡くで、其日の活計が立たなくなつちまつたんで、已むを得ず、或時の事、町の角に立つて『一文くだされ』をやつた。ところが、直巡査に發見つて警察へ引つぱられた、而して三日の拘留に處せられた。太郎は其後拘留場から直に養育院にと送られた。此處にて漸うの事食物に有り附いたは有り附いたが、一定の制服を著て居ねばならぬので、道行く人毎に後指をさゝれて笑はれた。或時太郎が首垂れ勝に町を歩いて居ると、太郎が全盛の折に能く知つて居た奴に出會したんで太郎は進んでお辭儀をした。併し相手は此お辭儀に答へなかつた。其處で太郎は『何せ貴郎はソナに私を輕蔑するののか』と聞いたら、其奴が『お前は世の金持になつた人々の例に倣ふことを判別へて居らぬからだ』と答へて、嘔吐をつき相な貌をして、サツサと通り過ぎて了つた。



▲太郎の困却 (下)

太郎は愈鬱いで来た。種々の悲しい苦しい考想が目のまはるやうに轉々と頭の中で廻つた。而して日本晴のした或朝偶と養育院を飛び出して散歩に出かけるのと、過ぎ去つた悲惨な一生が現然と太郎の腦裡に浮んだ。初のほどは太郎はブツブツ呟いて居たが神經の亢奮するにつれて大聲を揚げて怒鳴り出した。

『俺も今年は既う七十になつた。考へて見れば、俺は如何しても俺らしくなかつた。世間が俺に俺の心を有たさなかつた。俺が心の中で斯うと決心してそれを實行しやうとすると、其筋の奴原がこれに干渉した。権限のない奴までが、俺のする事爲す事に喙を容れた。』

『それでも俺は猫のやうに従順しくして居た。俺はドンナ人の事にも氣を注いで、而して其人を尊敬した。併しドンナ人も俺の事に氣を注げてくれなかつた。尊敬したものは固りなかつた。奴等は他の權利を保護するてえ口實の下

に俺の有らゆる權利を奪ひ去つた。併し今から考へて見れば奴等は斯う云ふ風で、俺の權利ばかりではなく、他の權利も此口實の下に奪ひ去つたのだ。俺は俺の長い一生を犬と一緒に暮らすより外許されなかつた。其犬でも一寸打らうとすると、やれ動物虐待の、やれ紳士のする業ぢやないのと、世間から彼此云はれた。』

『俺は無理に兵隊に取られた。一朝事があつて外敵が國內に侵入した日にはこれを追返す兵力がなければ、異國の主權の下にどれ程豪い虐待に逢ふかも知れぬから、人民が其共同の敵を防ぐ爲兵隊に取られるのは、當然の事だ。併し俺は其外に租税を取られた。俺のする事爲す事を嗅ぎつけて、おまけに俺を拘留にまで處した警察を繁昌させる爲に血税を拂つた。俺は奴等の要求するにまかせて俺の自由を總てこれが爲に犠牲に供した。其代り奴等は其報酬として俺の財産を保護してくれやうと云つた。併しソナ事は俺に取つては

毫も有がたくはなかつた。俺はてんで財産と云ふものを有つて居なかつたから。偶財産があれば、其財産の庭園は他に奪られて了つた。而して漸う人手からそれを回復へしたものの、其間の五月蠅さと費用とは皆自分の負擔だつた。警察なんかなくても可いものだ。無ければ無いで各人が好きなことをすれば可いちやねえか。俺が近隣の奴を打殺すか、近隣の奴が俺を打殺すか、二つに一つを選ぶ方が餘ほど氣が利いて居る。始終有がたい警察の御難題になるのは、始終竹馬に乗つて泥濘の海を渡ると同じだ」

太郎は寒風に吹かれながら或河岸を通りかゝつて、水面を凝視して獨言を云つて居たが、感極まつて洶とばかり、其河に飛び込んだ。併し平生の通り矢張巡査が附きまつはつて居たので、直ぐ救ひ上げられて、最寄の警察署に引つぱられ、嚴しい説諭を喰つた。これが西洋だつたら自殺罪に問はれて、まだ其上に牢にぶち込まれるところだ。併し太郎は此身投げの爲風邪を引いて肺病に罹り、

種々苦しい想ひをした揚句、幸か不幸か知んねえが到頭くたばちまつた。

▲戦争と罪惡

我が哀れなる太郎奴のぬかしたことは成ほど無教育者の言に過ぎねえ。太郎は警察ばかりの惡口を云つた。それは警察が太郎の目に附いた國家の唯一の機關だつたからさ。而して太郎は文明の不便なる點を針小棒大に攻撃して、文明の恩恵を理會しなかつた。併し全體の上から觀れば、太郎のぬかしたことは違ひがねえ。國家が人民の上に課した自由の制限は、其報償として國家が人民に與ふる利益よりも遙に少ねえ。割が合はねえ。勿論今日では租稅論に報償説を唱ふるものは、頭の舊い經濟學者か、さもなければ太郎のやうな無教育の讀者を相手にして居る新聞記者かなんぞで、一般の學説は犠牲説に傾いては居るが、普通の人民が其處とこまで考へて居ねえのは無理もねえつた。一般の人民は或目的の爲に其自由を抛棄し、而して其報償として或利益を得ようと望

んで居るのだ。人民は個人として國家に其權利の大部分を犠牲に供する代りに其報償として個人の生活、財産の保障を得て、共同一致して其力を個人の利益を進捗する或事業に向けようとして居るのだ。ところが其事業は計畫もせられねば、勿論遂行もせられなかつた。成ほど國家は理論上其計畫を實行したかも知れぬ。併し甚だ不完全なものだつた。近世文明國の個人に許されたよりも、もつと大きい自由を許されて居る原始的の野蠻國が其計畫を實行したよりも不完全だつた。第一國家は多數市民の鮮血を流す恐るべき戦争を防止することが出来ねえ。文明國には野蠻國よりも多く戦争があつて、而して一層殘酷な戦争が行はれる。文明國の民は法律を有つて居り、而して其自由を制限せられて居るにも拘らず、警察なんぞの無え野蠻國の民よりも、鐵砲や刀で殺されることが多い。世間氣のねえ學者なんぞは早晩戦争のやうな野蠻な行爲は廢止せられて、仲裁裁判に一任する時代が來ると云つて居る。併しそれは餘ほど前途のこ

とだ。俺等は現在のことを話して居るのだ。平和の折には忍んで個人の自由を犠牲に供して居ても、まさかの時には生命を取られるのだから、これほど割の合ねえ話はない。まるで亞弗利かの土民と一般だ。戦争は別としても、文明人は野蠻人よりも生命が危ねえ。感情の行違ひから、文明國ではどれほど殺人罪が流行して居るか知んねえ。警察があつたつて、如何してこれを豫防することが出来るものか。文明國の民は年中殆ど寧日なした。愈事が發覺となつて加害者は逮捕つて殺されるとしたところが、殺された者には何の有がた味もねえこつた。事によると、鑑定家が精神病者などと、貼札を張つて殺人者も無事に命の助かる事がある。或は酌量減刑とか宥恕減刑とか、執行猶豫とか種々な口實を設けて犯人を寛大に取扱ふ。此殺人罪に次で文明國では非常に殘酷な豫め熟考に熟考を重ねた巧な犯罪が流行る。これは文明國にばかりある犯罪で、野蠻國には無え犯罪だ。進歩した科學の上から見ると、常習犯人と云ふ奴

は、大酒家や放蕩無頼の者の子に多い。而して日頃から癡癡や其他の精神病に罹つて居る。大都會の下等社會の悲惨な生活は、貧乏人の精神と身體とを打壊はして、續々として此等の徒輩を出す。世界にどれほど完美した法律があつたところで、文明に伴ふ此等の條件の結果は如何しても防ぐことが出来ねえ。世間の中央にコンナ泥棒や殺人者が暴れ廻つて居る間は、俺等は迂濶寝ても居られねえぢやないか。

### ▲財産の保障

俺等の財産は生命と同一の程度に於て同一の保障を國家から要求するの權利がある。然るに國家には千百の法律があるに拘はらず俺等の財産は時としては直接に懷から、時としては間接に個人又は團體の所爲に係る大小幾百の詐欺によつて盜まれるから堪まらねえ。公共の貯金は泥棒される。投機業者は市場の手細工で以て立どころに數千人の財産を粉碎にする。粉碎にせぬまでも減ら

して了ふ。紙を財産にして居る文明人は、牛や馬を財産にして居る野蠻人よりも、犯罪によつて其財産を失ふことが多い。處が此にコンナことを云ふ奴が居る。詐欺や投機に對しては別に國家の力を借りるまでもなからうぢやねえか、人民が各自にこれを防いだが可い。何も人間は無理に他から金を取られる義理もなければ、細工澤山の株券を買はねばならぬ義理もねえ。成るほど此奴は理屈だ。だが、ソイツは思慮分別があつて、能く物の道理を判別へて居る人間でなくちや出来ねえこつた。俺等のやうな凡人には然うは可かねえ。一步を譲つてさ。人民は各自に自分で自分の財産を保護することにしよう。然し、さうなれば法律は無用の長物だ。俺等は平生何の爲に自由を抛棄したり、血税を納めて居るのか、理由が判らなくなる。野蠻人でも能く吠える犬と、立派な武器と家來を澤山有つて居れば、警察がなくても十分に自分の財産を保護することが出来る。然るに文明國の人民と來ては悲惨なものだ。御役所には朝から晩まで

一日中筆を持つて、何をして居るか知んねえが、我々と働いて居る御役人様がドツサリ居らせられるに拘はらずさ、金庫からは貯金が盗まれる、懐からは金入が掏摸れる。文明人は野蠻人と同様に自分で自分を保護せねばならぬのみか國家の口頭ばかりの保護の爲に、損な割前の數々を拂ひ續けて居る。成るほど金持だけは手許に残つた金よりも少い金を租税として拂ふかも知れぬ。併し金持と云ふ奴は何處へ往つても少ねえ奴だ。何處の國へ往つたつて、多くの人間は貧乏人だ。貧乏人も貧乏人、まあ辛と食つて往くと云ふ徒輩が多い。處が、此貧乏人までが悉皆租税を拂はなければならぬ。一生の間に拂ふ此税金を溜めて置けば、藏は建てられぬまでも、先づは安樂に暮せると云ふものだ。文明國に生れる奴ほど、世の中に間拔た野郎はねえ。野蠻國に生れせえすりや、自分で自分の財産を保護すれば、それで租税なんかを拂ふ必要はねえ。文明國と來ては租税を拂つた上に、自分の財産を自分で保護せねばならぬ。くだらな

い、何の事つた。其租税も餘裕とか贅澤とかの上に課けるのなら、一應理屈もある。然るにこれを人間の必需品や必要なる制度の上に課けるに至つては、實に怪しからぬ次第ぢや。何に行政整理だと、行政整理が聞いて呆れら。役人の一人や二人を減らしたつて、どれほどの金が残るもんけえ。ソナ吝嗇なことをまして官吏の増俸を行ふよりも、一層の事、議員の歳費を廢止して、それを官吏の増俸に充てるが可い。而して議員には其報酬として勝手に收賄を許すのだ。其方がどれほど今日の議員に似合つて居るか知れねえ。何に、公債償還、外國に對して我財界の信用を高める。一體政治は誰の爲にして居るのだ、外國の爲や株屋の爲にして居るんではねえよ。人民の爲にして居るんだ。内國多數の善良なる人民の爲にして居るんだ。成るほど今日では一國が他國から孤立して政治經濟を行ふことは出來ねえは知れた事つた。併しソイツは手段だ。目的ぢやねえ。手段も手段、ソナ政策を弄さねえで、先人民の財産の安全を

保障して而して後大に策ありと云ふものだ。三税は廢止して、嘗めるものは嘗めさせ著せるものは著させて、而して偶には廉い金で旅行もさせてやらなくちや、人間が日に月に吝嗇になつて了ふばかりだ。さまを見ろ。

▲國家の冗費

残るところ、今日の國家の最後の目的と云ふのは、人民の力を集めて一人では到底出來切れねえ仕事を人民の爲にしてくれるより外はねえことになる。處が國家は此仕事をして居るか如何かと云ふと、して居るには相違ねえが其仕方が非常に不完全だ。今日の國家は莫大な力を空費して居る器械に過ぎねえ。高え金を出して力の一小部分をしか働かして居ねえ。殘の力は政黨を操縱するとか、株屋を喜ばせるとか、各省の晩合とか内部の軌轢に費して居るか、さもなくばピー／＼矢筈しい汽笛が、ゴ／＼五月蠅え車輪の音の爲に煙にして居る今日の文明國は人民から血税をしぼつて、馬鹿々々しいくだらねえ犯罪的の事

業にこれを使つて居る。社會が共同一致してやらなければならねえ仕事は、或人間の妄想や、少數の者の貪慾を充す爲に行はれて居る。政治家や軍人を喜ばせる爲に行はれて居る。だから、文明國の人民は、自分の生命や財産を失ふ爲に血の汗を流して働いて居るんだ。旅順の要塞や、バグダッド鐵道や、ドレツドノートや、軍用輕氣球を捧げる爲に血の汗を流して働いて居るんだ。而して人民は直接に其利益の十分の一も受けて居ねえのみか、要塞司令官とか、鐵道總裁とか、艦隊司令官とか、輕氣球大隊とか、種々なものが出来るんで、國家の機關の間に却て種々な軌轢や衝突が起つて、どれほど人民の時間と自由を奪ひ去か知れねえ。國家の御役人様方はこれが爲に高え月給を貰つてホク／＼もので居ようけれど人民はイクラ有つても足りねえ金を出して、コンナお飾物を買ひ込んで、肩が重くなるばかりだ。これを思ふと、人間は如何しても小せえ國か、さもなくば何しても廣く地方分權の行はれて居る國に生れ

ねえのは嘘だ。コンナ處に生れば幸ひと租税を拂つても冗に費はれる氣遣ひはねえ。人民が各自に是は利益、之は不利益と直接に其利害を感じ、最初局に當つた奴が失策つても、殷鑑遠からずで、後の奴が豫め注意をするようになる。だから、人民から取つた租税を有益な事業に使ひ、成るべく冗費を避け、望みのない事業にはてんで手を著けねえ。コンナ國であつてこそ、初めて前途遠大な、空想的な、やまかん半分當込半分の事業は見たくても見られねえやうになるのだ。コンナ國であつてこそ、自分の利益や快樂を買ひ得る、望みのねえ事業の爲に人民は金を出さねえやうになるのだ。文明國の人民は意地の汚ねえ少人数の爲に權力を濫用されて居る。自分の頭を打たれる棒を買はず爲に此奴等に金をくれて居るのだ。

以上述べたる所をだ。ランビキにかけて見ると斯うなんだ。人民の生命財産は一年三百六十五日筆を執つて許可、認可、免許、特許、指令、命令、處分、

裁決、判決杯と騒いで居るお役所があるよりもない方が餘程立派に保護されると云ふのだ。詮じ来れば人民は國家に提供して居る血や金や自由の報酬として國家から受取る利益はまあ公共の教育と司法行政やれえのものだ。其教育と云つた處が、人民が皆同じ度合でこれを受られると云ふのもなく、又裁判と云つた處が、少ねえ費用と短けえ時間で受られると云ふではないが、まあまけといて斯う云つて置け。

### ▲社會の進歩と國家

一體法律てえものは、これがなければ、暴力で以て或除外の場合にのみ強行する壓制を一樣に人民に加へようとするものだ。なるほど現代の文明に在つては、人間の平均壽命は野蠻人に比して餘程長くなり、健康も勝れ、一般の道德標準も高くなり、平和でもあり、又常習的犯人や先天的犯人が居つて俺等に危害を加へなければ、他に寸毫も暴力を加へらるゝ氣遣はねえ。併し此はくだく

だしたお役所があつたり、法律があつたりする爲に被る恩澤ではねえ。文明が進んで人間の判断力が進歩した自然の結果だ。文明國の民は國家から鎖を附られて犬同様に取扱はれて居るから野蠻人よりも一層自分で自分を保護しなくちゃならねえのだ。其癖文明國の民は餘りソナ経験がねえので、知らず識らずの間に自分で自分を保護するの手段を忘れた。最早利害關係の遠近を悟る先天の感覺を失したので、幼少え時から野蠻人ですら生命がけに抵抗し相な壓制と強迫に慣れて居る。其故で野蠻人よりも自分で自分を保護することが下手なのは當然だ。國家てえものがある爲、文明國の人民は、政府のお役人様は、何でも彼でも自分の爲に考へてくれるし又法律は性格の屈伸力を破壊して何時もなからの壓迫で人民の抵抗力を喪失せしめて居ると云ふ考へを起し、國家の壓制も人民の目には遂には不正と見えぬやうになつて來たんだ。

何に、現今の警察法が人民の生命、財産を保護するに必須缺くべからざるも

のだと、嘘を吐け。亞米利加の西部や濠洲の鑛山では、相警委員てえものがあつて、人民が自分で自分の生命や財産を保護して居るやねえか。何アに、法律や裁判所が正義の府だと。嘘を吐け。原始社會では公私の權利が整然とかう分れて居て、何でも最初に物を發見した者が其物の所有權を得、自己の勞働の結果は自己の所有となつて居たりやねえか。別に法律や裁判所がなくなつて、常識で以て物の正、不正位は整然と判らうやねえか。現今の法律や條例や裁判所や行政官廳は十の九までなくなつて、人民の生命財産に對する保障は寸毫も現今とは異らねえだらう、人間は依然其の權利を享有して侵されはしねえ文明の純粹なる便益はこれが爲に寸毫も減することはねえ。それで以て人民は從來にねえ自由を得、此頃の人間が夢にも見ねえ個人性をも理解することが出来るから可笑しいやねえか。なる程かうなれば人民も最初は驚いて不安の念を感じずだらう。恰度鳥が籠から放された時、喫驚して心配する様に。併し先



づ羽を擴げて飛んで見てから、勇氣と信賴が全身に漲ぎつて虚空遙に舞ひ上ることが出來ようと云ふものだ。

何に、俺のことを無政府黨員だと。馬鹿を云へ。呆然して聞いて居るから、ソナマ鹿な考を起すのだ。無政府なんてえこと吐かす奴は、物の正しい觀察の出來ねえ徒輩の囁語に過ぎねえのだ。ロビンソン、クルソーの様に放れ小鳥か何かに棲んで居る人間なれば兎に角、人間が一緒にかう集まつて住み出せば直に政府てえものが必要になる。交際動作の形式やら規矩やら、約束やら服従やらも必要になる。物の判つた人間は無政府なんてえことを夢にも見られるもんか。俺等の主張と云ふのは、斯うなんだ。此頃のやうなくだくした政府の機關を根本から整理し簡略にして、而して目的のねえ壓迫の制限を撤廢せよと云ふにあるんだよ。判つたかい。それが判れば萬歳く。

### ▲國家の財政

政府の組織が斯う改善されたつて、人民は無論社會の爲に働かねば不可え。即ち租税を拂はねばならねえが、併し公共の賦課は現今の如き憎むべき強奪の性質を失ふに相違ねえのだ。元來俺らは米屋に金を拂つたり、芝居の木戸錢や俱樂部や會の費用を拂ふのを厭と思はねえ。厭と思はねえのみか廉いもんだと思つて居る位だ。何せ俺等はこれを厭と思はねえかと云ふに、それは金相應の報償が得られるからだ。無理に取られる氣持がしねえからだ。若しも政府の組織が簡單になつて、人民が各自に其目的を知り、随つて其事業を監督し、其力の運用に嚆を容れることが出來るやうにならば、人民はこれに由つて直接の報酬に得られる費用として、租税を拂ふことを決して厭と云はぬに相違ねえ。斯うなれば、人民は自分が拂つた一厘一毛までが夫々役に立つて居ることが判るので、不平の言へよう道理がねえ。誠に以て公明正大の次第だ、併し現今の

組織のやうな國家に在つては、租税は實に憎むべき賦課だ。國家の機關が不完全、不完備極まつて居るにも拘らず、割合に費用が多くて孰の租税も廉い奴は、一もねえんだから驚くだらうぢやないか。のみならず、社會の歴史附組織や、間違だらけの法律の爲、特に租税から收納した公共基金の費用が財政と云制度で整理されて、國家の利益を主として居る合理的の常識で整理されて居ねえ爲、租税の取方が不正不當を極めて居る。一口に財政と云ふと何でもかでも皆これに譲らなければならねえやうな大切なものに思はれるけれど、熟々考へて見ねえ。財政と云ふ奴はソナナに有難いものぢやねえのだ。財政と云ふ奴は、國家の眞正なる合理的の目的や、其目的が人民に及ぼす政治上の結果なんかは、てんで考へねえで、行々はコンナ甘い汁を吸はしてやる、將來はコンナ幸福な目に逢はせるなど、出まかせを云つて置いて、成り可人民の懐をしぼつてやらうと云制度だ。財政は正義の原則を二段として収入の原則を一段として居る。

租税の賦課が公平であらうがあるまいが、其収入で以て國家の必要なる機能を運用出來ようが出来まいが、ソナナことには頓著しねえで、如何したら人民から出來るだけ澤山金をしぼられるかを、朝から晩まで考へて居る制度だ。社會に迷惑をかけるやうな我儘をしねえで如何したら最も善く人民の利益を保護出來るかと思ふことは考へずに、收入官吏が如何したら、骨を折らず、人目を惹かねえで人民から金をしぼられるかを、朝から晩まで考へて居る制度だ。學問の上から云ふと、近世の國家は人民の安寧を進捗する制度で、封建制度は國家の威光と權力を増加する爲に人民を奴隷にする組織だつた。今日の財政は即ち一種の封建制度で、國家を主として人民を従として居る。今日の財政から見れば、國家は先著者で自然の儘の支配者、人民は後著者で自然の儘の服従者だ。租税は人民が自由意志で以て支拂ふ費用ではねえ。報酬として或利益を得ようと思ひ費用ではねえ。財政學者の間に報償説が排斥されて犠牲説が流行しつゝ、

あるのは其一の證據だ。凡そ理論を後楯として居る實行程世の中に恐ろしい者はねえ。佛蘭西革命も之が爲に起り、王政維新も之が爲に出来た犠牲説を後楯にして居る財政が將來人民に對して什麼犠牲を要求するかと思ふと身の毛がよだつ様に恐い。今日の財政は人民を驅つて全然奴隷にしようとして居る。恐ろしい了見だ。と思へば説は陳いが實際では矢張報償説が可い様に考へられる。英國の様な自由の政治振は、獨逸の様な、壓迫の政治振より先は安全と云者だ。

### ▲國家の官吏

發達した國家の觀念に従へば、官吏は人民の代理人で、人民から直接に其月給や、權限や地位を受けて居るのだ。だから國家の官吏たるものは、此觀念に従つて責任を感じ、人民自身では官吏と同様の便利と確實を以て従事はることの出来ねえ利害問題に注意して、人民の幸福を謀る心掛が常になくはならねえ。これは別に發達した國家の觀念に従はねえでも、眞理なんだ。西洋の法制

家を見ても然うだ。ゲルマン時代では國家の大臣はミニステリアーレスと云つて奴隸(クネヒト)の事を意味して居た。現今のミニスター(大臣、公使等)は此ミニステリアーレスから轉化して來た語だ。大臣々々と然う意張られて堪るものかい。其上國家の官吏は理論上、一家の下女下男よりも必要缺く可らざるものではねえ。主人は時によりては別に下女下男の手を借りねえでも靴を磨いたり、水を汲ひたりする。之と同様に人民も自分で國家の行政に參與することが出来るとだが、分業の利益があるから、夫で官吏と云ふものを置いてあるんだ。處が今日の實際では官吏が御主人様で、人民が家來のやうになつて居る。怪しからぬことだ。憲法法律の上から云へば、なるほど官吏は國家の元首や大統領の手下かも知らねえが、社會的の起源は此と正反對だ。壓制政府の餘波で人民に服従を強ひるのは飛でもねえ間違だ。現に太郎の如きは其壓制に馴つちまつて著るしく我を折つたものだ。太郎は自分に命令するの權利があることを

忘れて、服従の義務だけがあるやうに心得て居た。太郎はお役所へ出頭しても其權利を主張しねえで、只管頭を下て懇願するの態度を取つた。お役人も因襲の久しき、人民が家來で、自分が主人のやうに心得て居るので、これを當然のこと、考へて居た。偶骨のある人間が居つて、役人と喧嘩したと思ひねえ。十中の八九は役人が勝つ。よし人民が勝つても、其喧嘩の間は著るしい不便を感じる。尻が來る。尻が來ないまでも其喧嘩が非常に永引く。孰れにしても人民は損だ。泣く子と役人には勝てねえと云ふのが現今の有様だ。西伯利亞地方の諺に「權勢と争ふな、富豪を訴へるな」と云ふのがある。流石は露國だけに露骨に現今の國家の政治振を一言で評し盡して居る諺が有から面白い。我國でも泣く子と地頭にはいつも勝てねえものと見える。さすればお役所へ出てへコ／＼頭を下げた太郎の心中も少しは察してやらざるめえ。可愛相に。何に、其代り今日は立法院でえものがある。代議政治でえものがあると、そ

れで以て國家の財政や法律やお役所が人民から奪ひ去つた自由を人民に取戻すことが出来るやうになつたと。其で以て封建時代の奴隸が近世市民になつたんだと、嘘を吐け。其は唯理論の上のことなんだ。實際はなかく然ういつて居ねえから癪だ。俺等は現在二つの嘘で以て身體を取圍まれて居るんだ。一の嘘は過去と云ふ假面を被つて居、もう一の嘘は將來と云ふ假面を被つて居やがる。一は昔は實を有つて居たか知んねえが、今は形ばかりが残つて居る。一は形ばかりで今も尙實を有つて居ねえ。今日の專制政治と宗教は形ばかりが残つて居て、實がなくなつて居る。これが嘘の一つ。代議政治は形ばかりで、内部國家の組織は今も昔も寸毫も變つて居ねえ。これが嘘の二つ。專制政治と宗教は古い徳利に新酒を入れたやうなもので、代議政治は新しい徳利に古い殘滓を入れたやうなものだ。お望みとならばこれから素破抜いて見せる。

### ▲代議政治の真相

代議政治は人民主權説を實行した制度だ。嚴密なる理論の上から云へば、人民の全體が大集會を催して、法律を制定したり、雇人を決めたりして、直接間接に其意思を實行しようとするのが議會本來の性質だ。處が文明が進むに伴れて、人口は益増殖する。生存競争が愈激烈となつて人民が大勢然う何時も集まつて、國事を議する追も無なれば、集まる場合もなくなつて来る。其處で代議士と云ふのが選舉せられ、又其代議士が今度は少數の内閣員に自分の使命を委任せねばならぬ破目となる。而して内閣員が此の委任に基いて、法律を執行し、租税を賦課收納し、官吏を任命し、宣戰講和の下相談にあづかると云ふのが、社會の發達から見た代議政治の變遷だ。俺は無論茲に法律一偏の形式論をし様と思はねえ。形式は如何とも決める事は出来るが、實質的社會的の眞の意義に至つては萬世不易なもんだ。俺等は此萬世不易の眞の意義によつて代

議政治を論じ様とするのだ。さて何處々々までも人民に其主權を留保せしめ、人民をして邦家の運命の唯一の決定者たらしむるには其間に幾多の權限の授受があるにもせよ、其根本的の假定に至つては其間に寸毫の増減もねえ。人民の委任を受けた内閣諸公及び官吏は、徹頭徹尾其個人性を没却しなければならぬ。議會に議席を有する代議士は普通の人間では役に立たねえ。喋舌て投票する委任者でなくてはならぬ。又委任によつて發表せらるゝ代議士の意志は、何等の妨害、變化を受けてはならぬ。何等の個人的勢力の爲に動かされてはならぬ。又内閣諸公も立法者多數の意向意志を受継ぎ又これを實行する無意思の器械であつてはならぬ。代議士の委任を爲果せぬ内閣員、人民の委任を爲果せぬ代議士は、共に罷免さるべき者だ。だから其委任事項を十分明かに了解して居る必要がある。又人民は共同一致して、國家の最大利益と決せられたる法律や行政に關して先づ一定の意見を立て、一定の方法を講じて居なければな

らねえ。而して代議士に對して嚴重に其意見や方法の實行を要求しなければならねえ。人民は學識德行共に深厚なる代議士を選擧して、能く選舉人が作つたプログラムを了解し且之を實行する腕のある人間を發見けなくてはならねえ。斯うなつてこそ、初めて理想通の政治が行はれ、初めて立法者の意思が直に法律になるのだ。語を換へて云へば、國家組織の重心は投票箱にある。代議政體の人民たるものは先づ十分に此點を承知して居なくてはならぬ。

然るに請ふ實際の有様を見よである。實に言語道斷の沙汰ではねえか。代議政治は本家本元の英國や白耳義に於いてすら、俺等がこゝに云つた條件の一も備へて居ねえ。選舉投票に表はれて居る人民の意思は全然無結果に了つて居る。代議士は自分の意思に従つて勝手放題なことをして居る。偶 其意思を檢束されることがあつても、それは選舉民の意思に對する義理合ではなくて、自分の競争者に對する義理合からちやねえか。内閣は實際に於て一國を支配するのみ

ならず、又議會をも支配して居る。人民が彼等に命令した獻立には従はねえで勝手な御馳走をして食つて居やがる。議會や人民の意思は全然眼中にねえと云ふ有様だ。何に、多數政黨。多數政黨が何になるかい。多數政黨と云つても多數が知れた我利々々亡者の寄合だ。まさかの時にも現なまを握らせば、水月のやうに骨がなくなつて了うは見え透いて居る。其上政府は如何なる不義不正なことをしたつて、如何なる權限を濫用したからつて、ふん捕まる氣遣がねえから安心なものだ。此點から見れば内閣は代議士を腐敗させて置いて、而して其代議士に繩をかけるなどは世話のねえ話だ。政府が收賄を教唆して置いて、人民や代議士の收賄を問ふなどはホンマに罪だつせだ。何に、彈劾上奏と云ふものがある、ソナナものがあつたつて何になる。大山鳴動して鼠一疋といふのが、これまでの彈劾上奏の結果だつちやねえか。議會なんかは有つたつて無いたつて、内閣のタクトで以て如何ともなるこつた。心配するには及ばねえ。

▲議會の真相

議會は議員の虚榮心と野心を満足せしめ、又議員の個人的利益を進捗するの制度に過ぎねえ。人民は爾來千數年間、主權者の意志に服従し、又特權ある貴族を尊敬するの習慣を養成して來た。而して人民は此主權者や貴族に國家の財産を勝手に使用せしめて來た。併し此人民の中でも、偶將來を達觀するの明ある者があつて、所謂代議政體と云ふものを拵へて、自分の意志を主權の力だとして稱し、少數の貴族から財政の監督權を剝ぎ取つた。剝ぎ取つたは剝ぎ取つたが舊來の習慣は如何しても捨てることが出来ないと見えて、彼等は矢張今でも或る個人の意志に依て支配され、又少數の特權ある階級から掠奪を恣にされて居る。こゝに所謂個人とは昔の王ぢやなくて黨派の首領、特權ある階級とは昔の貴族ぢくなくて議會の多數である。人民と國家との間に存立した昔の關係は今も尙依然として存續して居たのだ。だから太郎は——別に太郎と云はねえで

も可い。英國ではデヨンニー、露國ではイワン、獨逸ではハンスと云つても可い——矢張り自分で其額を決め、其支出先を監督することの出来ねえ租税を拂はなければならねえ。自分で制定もしねえし、其效用をも認むることの出来ねえ法律に従はなくてはならねえ。自分で任命した筈の官吏に對して恭しく帽を取て敬禮しなければならねえのだ。

だが、議會の制度にも一の利益がある。それは外でもねえ。野心家が儕輩を利用して起つことだ。これが議會の正直正銘の利益だ。如何なる國でも、特に自己發展の向上心が漲つて居る國民の間には、如何なる時代でも、多數が鞏固に團結して自己の發展を遂げんとするの現象がある。彼等は生れながらにして人を支配するの能力を備へて居、隨つて他人の掣肘監督を受けることが大嫌ひだ。自分の意志、判断に従つて働く外、決して他人の容喙を許さねえ。彼等は自分が選擇し、自分が最も良しと考へるからこれに従ふので、決して他人の爲

に無理をせられねえ人間だ。コンナ人間はドンナ垣根でも打壊はすか、又は乗り越えて通る。彼等は其能力と性癖を遺憾なく發揮して満足しなければ、生きて居る効がねえと思つて居る。他から喙を容れられるだけでも、自分の『我』を微塵に粉碎せられたと考へて居る。他の努力で動いたと考へるだけでも、生きては居られねえと心得て居る。人間の世界だもの、何處へ往つ、たつて然う甘くいくもんか。仙人か何かであれば格別、社會へ出て他と交際ふ以上は衝突がなくては收まらねえ。處が、コンナ徒輩に取つて幸ひにも社會には親玉と云ふ穴がある。彼等は石のやうに堅まつて居て、餅のやうに柔かくねえ。其處で國家が形も大ききも考へねえで明けて置く穴へは入り兼ねる。彼等は自分の利益にならねえ法律、自分が其制定に參與からなかつた法律に抵抗して事によりては政府の官吏をも打ち飛ばすと云ふ恐ろしい權幕だ。君主政體には無論コンナ亂暴な奴を入れる穴があるもんか。政體の組織がコンナ徒輩の揮ふ鐵拳よりも

遙に強い。其處で彼等が其政體を顛覆へさうと焦慮る。僭王、反逆人、一揆、公盜などが即ち此徒輩なんだ。中世時代では此等の徒輩はロビン、フードと云つて森の中を横行して居た。或は山賊の頭となつて君主と人民を戰慄せしめた。ることもある、降りてはコルテズ、ピザロなど云ふ徒輩が新世界を荒し廻つた。我國でも平將門とか足利尊氏など云ふ名を借りて歴史の上に現れた。露國の虚無黨なども即ち此徒輩なんだ。今日の摩洛哥などにも此等の徒輩がうよくし居る。其處へ來ると代議政體は有がたい——有がたいのか有がたかないのか眞實の處は判らねえが——何しろコンナ徒輩の我を通させさて、而して國家の秩序を然う紊亂する事もなくて済むんだから目出度ぢやないか。太閤様のやうに鰻登りに登ることを苦心するよりも議員に選ばれて、一躍して立憲國の内閣大臣になるのがどれ程樂か知れやしえね。太郎は益其頭を下げねばならねえが、議員は益々其頭を擡上げる許りぢやねえか。内閣大臣には苦悶も多からう



併し他の意志に従はねばならぬやうな苦悶はねえ。一言以てこれを蔽へばだ。議會制度は破壊的の爆發から國民中の有力なる個人を防ぐ安全瓣だ。

▲政治屋の虚榮心

代議政體國の政治屋は、彼奴も此奴も虚榮心の奴隷ばかり、十軒店の人形のやうに悉皆立派な衣服でも著て威張つて居たいてえ奴ばかりだ。此虚榮心を満足させたいばかりに、土百姓も今では鍬を捨て、フロツクコートにシルクハット、綱引きの俵か何かで威風堂々と議事堂に乗り込んで來やがるから驚く。其處へ來るとデスレリーやガンベツタなどにはコンナくだらねえ虚榮心は露程もなかつた。眞實の政治家になると、今時の政治屋のやうに、何處の馬の骨か知らねえ奴に羨まれたり、新聞記者や、傳記書や寫眞屋に跡を追はれたりすることを寸毫も難有いとは思はねえ……却てこれを五月蠅がる。彼等はソナナ下らねえ見榮を張る爲に、此文明開化の世の中に原始時代の狀態を繰返し

て居る下等な政治界には入えらねえ。から見ねえよ。政界は何時も戦争だぜ。平和もなければ休戦もねえ。嘘を吐く。陥穽を拵へる。拔足差足で人の寢息を窺ふ。揚足を取る。會ふ人毎に、他を敵だと思ふ。寝た振をして居て、片一方の目を開いて鐵砲を覗つて居やがる。罵詈謗、惡口喧嘩、猜忌嫉妬、有らゆる惡徳の横行所だ。コンナ修羅道に如何してまた奴等が入るか云ふと、夫は自分の我を通したいばかりからだ。むづかしく云へば自分の個人性を完全に且自在に發揮せしめたいからだ。逢ふ人毎に之を壓伏し、逢ふ障害毎に之を制御したいと云ふ意志の自覺から生ずるくだらねえ快感を知りたいばかりからだ。コンナ快感は眞人間の得て望むべからざる所だ。他人の意志を枉げて自分の意志に従はせ、而して自分の意志の強いことを自慢にしたいばかりからだ。外には何の目的もねえ。

今日の政治界の狀況が果してコンナものだとすれば、政治界の飯を食て居

るものは、退いて仙人をきめ込まねえ以上は、否でも應でも人を制するか、又は人に制せらるゝより外に途がねえ。其處で根性骨の強い奴は、人に制せられるのが厭だから、已むを得ず人を制する側になる。何にも人を制したからつて別にこれと云ふ面白れえこともねえんだが、然うしなければ、自分の自由と獨立を樂むことが出来ねえから、已むを得ず此方に廻るのだ。權勢に渴望してゐる徒輩は、誰しも目の上の瘤を嫌ふに相違ねえ。此點に至つては日本人でも支那人でも西洋人でも同じだ。該撒は羅馬に於て第二流に落んよりも、寧ろ村に於て第一流たらんと云つた。寧ろ鶏口となるも牛後となる勿れてえことも即ちこれだ。若し該撒にして眞に國を支配することのみを思つて居たならば、或一人の意志に従ふことを我慢して數百萬の人間を支配する方がタツタ數百人の人間から御主人様々と尊崇れるよりドレほど氣が利いて居るか知れやしねえ、處が政治屋の心事を探ると然うでねえ。彼等は唯自分の我の強いことを知りたれば

つかりだ。羅馬に居れば自分よりも強い意志に出會すことも度々あらうが、田舎に居れば我儘仕放題のことが出来るからだ。該撒にして既に然りとすれば爾餘の政治屋の心事は推して知るべしぢやねえか。若し夫れ多數の陣笠連に至つてはだ、ソナ腕前もなければ、意志もねえから、何でも國家の拵へて置いた穴へ逃げ込んで、飯にあり付くか、又は賄賂でも取つて、揚句の果が日糖事件などを惹起して、世間の物笑になるのが關の山だ。やれく。餘り喋舌つたので口が酢く成た。此處らで一吋一服しよう。何だと、議會が召集せられたと。而して二十二日から開會された。政治も愈嘘の吐時節となつたか。やれやれ五月蠅え事、五十蠅え事。(完)

# 自由放任主義

(一)

我が關稅に對する英國人の誤解も久しいものだ。此の誤解は我が關稅改正案が愈々議會に提出されて、例の小村外相が例の風采甚だ揚がらざる態度を以て例の通りに試みた絃切形の演説を、横濱駐在の某英國商務官が誤譯して本國に傳へた當時に始まつた者だ。何でも小村が英國は自由貿易國だから關稅の改正に就ては協議する餘地がねえとか何とか云つたのを、故意か善意か知らねえが、其商務官が英國は自由貿易國だから協議する必要がねえと誤譯したことから始まつたのだ、何だ、くだらねえコンナ事で日本が故意に英國の輸入品に高い關稅を課したとか、課せぬとか、やれ關稅が高くなつたから日本に居る英國商人は己むを得ず此の際店を閉ぢなければならねえとか、何とか云つて騒ぐ必

要が何處に在るか、考へても見ねえ。相手が小村ぢやねえか、其の小村が英國は自由貿易國だから關稅の改正に就いては協議する必要がねえなんかと、ソナ肝膽のすわつたことが云へるものかよ。心經衰弱症に罹つて居ねえ一國の外相なら、此の際先づ思ひ切つて斯う云つて了ふのが眞實だ。併し小村にソナ事云へる者か。日本人に取つては迷惑千萬な外相を戴いて居るとは云ふもの、英國人たる者はまあ安心して可なりと云ふべしだ。支那協會の何とか云ふ人間だつて何とか云ふ所の商業會議所の會頭だつて、又下つてはデヨンスンとか云ふ人間だつて然らうぢやねえか。コンナつまらねえ事に遙々とタイムスへの投書でもあるめえ。タイムスもタイムスだ。其の投書を載けた許りか、堂々として日本の關稅政策を攻撃して居ると云ふは、呆れて物が云はれねえ。日本は英國の同盟國ぢやねえか。此の點から見ても、第一日本が英國を眼中に置かねえてことが、出来るものか出來ねえものか、常識を以てしても判斷が

自由放任主義

出来ることだ。日本の政治家の眼中には餘に英國が有り過ぎてこまる位だ。英國がなければモット自由な行動を取れることもあらうに齒痒いことをして居るものだと思ふことも一度や二度ではねえ。如何して今この處日本が英國の機嫌を取らねえつてとは夢にも考へられねえことだ。けれども、一國の政治經濟上己むを得ざる必要に迫られては、貧弱憐むに堪へたる日本國と雖もだ、自己の生活を維持する上に於て、偶には隣邦の意を害することもあらうし、又なくてはならねえ同盟國の機嫌を傷うこともあるだらうではないか、夫を愚圖愚圖云ふのは餘り物が判らなさ過ぎると云ふものだ。

政府も政府だし、新聞紙も新聞紙だ。相手の攻撃は最初から、絶對的に關稅が高くなつたと論じて居るのに、やれ協定稅率が如何で國定稅率が如何だの、從價稅が如何だの、從量稅が如何のと、當前ならモット高くなるのだが、斯うだから比較的安くなつたのだとか、やれ英國の植民地の稅率や歐米諸國の

稅率と比較して御覽なさいなどと、顧て他を云ふ様な、的のないのに矢を放つやうな、人の云ひもせぬことに答へるやうな、龔のやうな判斷の悪い答辯をするの必要が何處にあるか。夫よりは日本の政治經濟上如何も斯うしねえでは立ち行かねえから、御腹は立ちませうが、少時我慢をして居て下さい、其の中には又如何か致しますとさへ云へば、物が早判斷をするに云ふものだ。愚にもつかねえ雙方のこぼし方は傍から見ると、恰好女の喧嘩でも見て居るやうだ。一體日本人は外交と云ふものを、人爲的に厭に巧妙にやつて退けようとするから話にならねえ。外交はソナに面倒臭いものぢやねえ。西洋の諺にもあるぢやねえか。『正直は最良の政略だ』奥齒に物がはさまつて居るやうなことをして居ては、益列強の誤解を招くだけだ。夫に英國人も英國人だ。日本は今この處英國の女房役ぢやねえか。其の女房が少しばかり臍線金を整理しようとしたつて、然らうムキになつて怒るにも當るめえ。何處かそいらに猶然笑つて

るものが居ら。

一體英國は昔からの有名なる紳士國だ。其の紳士國の人民が關稅問題に限つて、何せコンナ薩張りしねえ女のやうな泣言を云ふのかと云ふに、夫には深い仔細がある。

(二)

英國は昔からの有名なる紳士國であると同時に、昔からの有名なる自由貿易國だ。所謂自由放任主義、自由競争主義はミル、スペンサー以來の英國社會學者、政治學者の御詔宣と決つて居る。而して英國の當局者も亦此の主義を今日まで採用して來たのだ。而かも其の主義は頗る頑強に主張せられたもので、英國が世界第一の強國であつた折には、夫はく實に素晴らしい自由競争をやつたものだ。他所の見る目も羨ましいほど随分と思ひ切つたことをして、周圍の關係を無視したものだ。併し時代は急轉した。今では英國のみが海上の大將

ではねえ獨逸と云ふ太平洋上の提督も居れば、米國と云ふ太平洋上の提督も居ることになつた、夫から貿易の市場も段々西から東に移つて來て、東洋は將來實に有望なる西洋貿易の得意先となつて居るのだ。夫や是やで英國が世界に覇を唱へて居た時とは、事物の關係が今では驚く可ほど一轉して來たのである。此際英國が何處々々までも絶對的に自由貿易主義を取ることが出来るか否かは一大疑問である。絶對に此主義を取らうとするから、くだらねえ煩悶をせねばなるぬことにもなり。又現に日本の新關稅に對して女のやうな怨をならねばならねえこととなるのだ。

且夫れだ、經濟上の問題はシユモールレルが云つた通り either or の問題ではなくて、Greater or Less の問題だ。自由貿易が可いとしたところが、保護貿易が可いとしたところが、時代もあれば、國情もあり、地理上の關係も異つて居るのだから、最初から自由貿易、保護貿易と確乎決めて置く譯には往かねえ。時

代や國情や地理上の關係から見て、孰の主義が他の主義よりも或る一國の國是としてヨリ多く採用せられるか、ヨリ少く採用せられるか、問題だ。先づ斯う考へた方が無難でもあり、又眞理でもあるやうに思はれる。英國人や又は舊派經濟學者のやうに自由貿易一點張では國家の方針が立兼ねる。又獨逸や米國の經濟學者のやうに保護貿易一點張でも國家の方針が立ち兼ねるのは同じだ。要は Greater or Less の問題だ。此の邊の理屈を考へぬと、つい又英國人のやうな泣言をいはねばならぬことゝなるのだ。第一日本の新關稅はもう既成事實となつて居るぢやねえか、夫に對して愚圖々々云ふのは男らしくねえ。紳士國の體面に關する。彼れ英國人たるものは此の際宜しく覺醒一番、右の既成事實に對して如何なる方針を取つて運動すべきかを考へた方が可い。是やがて當面急務の問題である。

何んだと、俺を保護貿易論者だと。誰がソナ事を云つた。俺は自由貿易論

者でもなければ、又保護貿易論者でもねえ。俺は國情論者さ。國情如何によつては、一の主義を取ることもあるし、又他の主義を取ることもあり、又兩主義を併せ取ることもあるせねばならぬと云ふのだ。政治上の問題に關してはグラットストン一派の所謂オツボルチユニストに左袒するものだ。唯今日の時勢から云つて、自由貿易と云ふ思想の根本の觀念となつて居るレーシー、レエア其の物は、業既に十八世紀の舊思想であると云ふとを斷言するに憚らぬものである。序論が餘り長過ぎたので、肝腎の本論に入るのが遅くなつた。併し自由放任主義の惡口を云ふと云つたところが、勿論漫罵するのではねえ、不確定な假説などは當にならぬから取らねえで置いて、先づダーウキン以後種々の試験に及第した進化論と云ふ確乎たる科學上の假定を基礎として、而して其の進化論が果して英國一流の自由放任主義を辯護するか否やを見ようとするまでのことさ。豈他あらんやだ。

(三)

進化論は無論貴族的の保守黨を辯護しねえ。併し一寸見た所には自由放任主義を取る急進黨に對しては如何にも聲援を與へるようにも思はれる。進化論を唱へる政治家は種族の利益の爲に、自然淘汰と雌雄淘汰に對する人工的の制限は是非とも之を除かねばならねえと云ふだらう。併し若し此説のやうに社會のあらゆる現象を以て悉く自然の同一規則に従はせようとすれば、勢い自然と人工との區別が立てられなくなる譯だ。俺等にして若し世の中の生存競争を妨げる總ての人工的制限を除かうとすれば、如何してもかのルーソーが所謂自然の國家、即ち原始的なる野蠻の狀態に復歸せねばならねえことになる。ホツブスの如きは自然の國家即ち非社會的なる國家の狀態を、總てに對する總ての戰爭だと云つて居る位だ。考へたゞけでも厭な事だ。折角と斯うして進んで來た社會を、今になつてソナ原始的の狀態に復歸せしめて堪まるものか。

且夫れ社會が十分に發達して、而して言語も亦十分に發達して來ると、直其處に觀念の競争と云ふものが開始まる。衝突の時代は研究の時代に次いで起るのが事物の順序だ。而して自然界に起る漸化と同一の傾向を以て起る所の此等の觀念が互に其の維持主張を争ふの結果は例の自然淘汰の作用で以て、一の觀念が亡びて他の觀念が榮えることとなる。即ち或る一定の觀念は或る一定時の社會に流行して道德の法則となつて、比較的固定した性質を帯びるやうになるのだ。例へば愛國心、人性に對する尊敬の念、有形の慾望に對する克己心の如きは、單純なる動物間に於けると同様に、自然淘汰の作用を経て今日まで生残つて來たのだ。而して社會は實に此の如くにして進化して來たのである。自然と人爲との區別については、ハックスレー教授が實に甘いことを云つて居る。社會は人爲と同様に自然の一部に相違ねえ。併し人間が其の直接の原因の一部となつて居る自然の或物は、まあ別物として觀察するのが便宜だ。此の點

から見れば、社會は人爲と同じく先づ自然と異つて居るものだと考へられる。道徳上一定の目的を有して居る點から見て、社會は自から自然と異つて居るから、此の區別は一層願はしくもあり、又必要でもある。何せかと云へば、倫理的なる人間即ち社會の構成員や市民の取つた進行は、非倫理的なる人間、即ち原始時代の野蠻人や單純なる動物が取らんとする進行と全く相反して居るからである。動物は生存競争を極端にまで實行し、人間は全力を擧げて、其の競争を制限しようとして勉めて居ると、斯う云ふのだ。

ハックスレーは更に進んで、コンナことを云つて居る。文明史即ち社會史は人類の種族が此の地位(他の意味の良者ではなくて、唯其の四圍の狀況に敵抗し得る適者が生存する競争)より免れようとする計畫の記録だ。其此に至らしめた動機の如何は先づ問はねえで置いてだ、相互の競争に代ふるに相互の平和を以てした第一の人間が社會を創設したのだ。平和を確立するには生存競争

を制限しなくてはならぬことは自然の理だ。而して社會が從來取つた有らゆる形の中で、個人に對する個人の競争に最も嚴重なる制限を附したものが、最も圓滿に近かつたと。誰が考へて見ても實に然うらしく思はれる。自由競争や自由放任とかで、社會が進歩するなど、思つて居る徒輩は、歴史の上面ばかりを見て居て、其の中に潜んで居る進化の原理と作用とに氣の注かねえ迂濶者だ。彼等には動物の進化を論ずる資格はあつても、人間の進歩を論じる資格はねえ、動物界の現象に少しも修飾を施さねえで、直に夫を人間界に有つて來て説明しようとするのだもの、人間が堪らねえや。

(四)

若しハックスレーの説に従つて自然と人間とを區別するならば、社會に於て働いて居る自然法を發見するのは固り必要なことには相違ねえ。併し此自然法が發見つたつて、俺等は何處々々までも夫れに従はねばならねえと云ふ道理がね



え。何せかと云へば、自然法と云ふ奴は、事實の経験とか、又は俺等をして事實だと思はしめる假定の綜合と云ふ意味に於ての法則と云に過ぎねえからだ。所謂經濟上の法則が俺等の尊敬を要求すと云ふのは言語の曖昧なるより生じた結果で、夫れには便利な點もあらうが、不便利な點も多い。併し法則其自身に於ては、自然と同様に絶對に無道德的だ。

スペンサーは、憲法は持へたものでなくて出来たものだと言つて居る。至極尤もな説だ。併しこれと同時に、憲法が自然法に干渉するから可けねえと云つて、政府を攻撃するのは矛盾だ。善いと云ひ、悪いと云ふのは、國家の干渉や保護でもなければ、自由放任主義でも自由競争主義でもねえ。賢明にして科學的なる國家即ち組織的にして先見の明がある國家が善いので、些細な事件に關して、何等の施備がねえよりも惡結果を齎す國家の行商的準備が惡いのだ。保護や干渉夫れ自身が惡いのではなくて、之をやる國家の善惡如何によるのだ。

少數の産業を保護し、多數の貧乏人を放棄つて置く國家は、半其の機能を意識して居るに過ぎねえ。社會の研究者に取つては趣味のある經驗を提供して居るかも知れねえが、其の經驗は實に殘酷なる經驗で、國家は此の際實に償ふべからざる惡事を行なつて居るといはなければならねえ。保護と御鹿末なる貧民救助法、貧民を減少しねえで寧ろ貧民を養成する救助法は當初から惡いに相違ねえ。併し同一の偏頗な行動でも遣方一つでは、然ら頭から攻撃も出来ねえ。例へば或兒童に自由教育を許すのは、貧乏人を養成すると同じだから可けねえが法律上の權利として、總ての兒童の教育は、何人をも貧乏人にするの氣遣がねえ。又同一の偏頗な國家の行動でも、國家は其の弱き者を助ける義務があると云ふ點からして、往々にして歡迎されることがある。たとひ國家が十分に其の義務を盡すことが出来ねえでもだ。

一體人間の自由と云ふことは、如何して發見つたものかと云ふと、夫れは人

間の思考方の研究の結果である。即ち觀念だ。人間が自然の奴隷たる地位を脱し得るのは、人間に此の思考力、此の觀念があるからである。併し斯う云つたとして、俺等を以て直にかの自由意志を信する者と誤解されては困る。人間に常に或一定の進行と其の反對の進行とを選択する力があると云ふやうな獨斷教を信するものと早悟されては困る。併し觀念其の物は制度の成果であつて、社會進化の理を十分に呑込まうとするなら、見逃すべからざる一要素だと云ふことを知つて置かざるめえ。

意識的努力の結果は必ずしも、無意識的の状態にある進行と相反するものとは限らねえ。夫れは既に始まつた進行の繼續や、延長やが速であることが往々ある、高等の有機體は下等の有機體よりも消費することが多い、例へば昆蟲によつて受胎する植物は、顯花植物よりも花粉を産することが少ねえ。又鳥類を牽く果實を有つて居る植物は、空中に無數の胚を漂はす隱花植物よりも種子を

産することが少ねえ。野蠻國では死亡率は高く、而して殺兒も大に流行する併し社會が進化するに此勢ひが多少は消滅する。之は植物について示した消費の關係を實現して居るのだ。激烈な競争や戦争や内亂や經濟的の戦争が數多の教訓を人間に與へたのは事實だ。と云つて、これと同様な良果が必ずしも安く買はれねえとは云はれぬ。戦争の廢止は雷鳴を廢止すると同様至極困難だと、獨逸の誰やらが云つた。併し木の實を探ると樹を伐り倒すにも當るめえ。戦争の廢止は或は困難であるかも知れねえが、これを制限することは確に出来る俺等は盲目のやうな人間の感情よりも、意識的努力に依つて生じた結果を多く信用するものだ。自然力は盲目の感情と兄弟だ。併し自然だからとて此等の感情に必ずしも特殊な威嚴を與へねばならぬと云ふ理由はねえ。今の青年自然主義者は何ぞと云へば直に偽はらぬ感情、偽はらぬ感情と云ふ。偽はらぬ感情が何だい。單に偽はらぬと云ふの故を以てこれに特殊の威嚴を與へねばならぬ

必要は断じてねえ。俺等は俺等の思考によつて、自然や感情を利用することも出来れば、又排斥することも出来るのだ。

戦争は種族や國民の間に行はれる競争の原始的な形と云ふ意味に於いて自然だ。併し斯ならねばならぬと云ふ意味に於ての自然ではねえ。戦争は國民の膽力、忠勇等の原始的な徳操の發達に與つて力あつたことは争はれねえ事實だ。最も膽力があり、而して團結力の最も強かつた種族が生存競争場裡に於て最も成功した。随つて此等の徳操が特殊の尊敬に拂はれるに至つたには相違ねえ。併しこれには制限があつた。膽力は戰場に於て現れる膽力に限られ、忠勇は自己の部落に對する忠勇に限られて居るぢやねえか。平時の膽力、敵に對する忠勇とは一寸受取り難い徳操だ。かくて反省が始まり、想像が發達するに至つて此二つの徳操は少くとも一層これよりも反省同情に富む個人の心理にまで波及するやうになつたのだ。社會進化の成果たる道德上の觀念が進歩發達するのは

實に此理に基くのだ。

夫から慣習だが、慣習とは何かと云へば、これに従へば部落又は國民の福利と成功に資する所があると證據立てられた爲、正しく考へられた習俗の事だ。併し此慣習はこれが發生を促した當時には固りなくてはならぬものであつたかも知れねえが、社會の状態が一變して、これがある爲、却て有害なる影響を社會に及ぼすの虞があることになれば、一刻も早く之を棄てねばならぬ。古は有益であつても、或點に於て今は有害となつた慣習を變更して、滅亡の域より人民を救ひ出すと云ふ事業は、あらゆる時代を通じて政治宗教及び社會改革者の職責であつた。かゝる計畫は自然淘汰により變更の原則に對する矛盾ではなくて、却て此の原則を説明して居るものだ。自由貿易の慣習だつて然らぢやねえか。社會の状態が一變して最早これに従ふことが出来なくなれば、これを抛棄するに何の惜しいことがある。セミストグルスが亞典を海軍國に一變させた

のはダーウキンが所謂動物の慣習に於けるスポンテニアスの漸化を人類が新慣習を熟考せる採用によつて移殖したに過ぎねえ。何の不思議もねえ事だ。野蠻時代では、成功した制度は大抵無意識の進行を取つた。併し進歩せる社會にあつては、意識と熟考が此の無意識に代つて居る。

代議政體は昔の政治と近代の政治との間に立派な一劃線を引いて居る。奴隸制度を廢止して民政を確立し、列強をして各自自由な制度を保有せしめて居る。處が此の代議政體は如何して起つたものかと、其の源を探ねて見ると、驚くなかれ、英國人が其の元首の金錢を調達する折、個人的に其の手段を講せられては困ると云ふ不平から起つたものだ。而して此の代議政體によつて、面倒なる義務が容易に他人の手に委せられたと云ふものだ。換言すれば、英國の代議政體は無意識的に發生したものだ。併し第十七世紀の内亂で以て漸う維持せられた代議政體や、英國の例に倣つて採用した列強の代議政體は意識し、熟考して

選擇したものだ。退けて了ふのは面倒だから、まあ元首丈は存して置けと云ふ便宜な主義を、一歩進めて複雑な状態に應用したものだ。近世の意義に於ける合衆國や聯邦は此の主義を、更に一歩を進めて複雑な状態に應用したものである。俺等は固より其最も良い狀況に在り、且最も誠實に運用されて居る場合に於ても、尙今日の代議政體に對しては不満足を感じる者である。併し其の起り得るポツンビリチーの故を以て、代議政體はあるよりも無い方が可いとは云はねえ。ソナナ馬鹿々々しいパラドックスには陥らぬ積だ。昔時の政治論者はかゝる制度の確立は夢にも見得なかつた。彼等は一瞬間たりとも民政的自由を拋棄する事なくしては、其の機能を他人の手に委する自由市民の存在し得る事を信じ得なかつた。然るに今日に於ては、俺等は實に奴隸たることなくして安全に其の政治權を他人に委して居るぢやねえか。

代議政體に關して未解決の問題は山の如くにある。併し俺等は此の政體によ

つて、兎に角多くの政治問題を解決した。將來も亦之によつて多くの問題を解決するであらう。而して此の政體を更に軍事上及び産業上の競争にも應用して何等かの好結果を得ることが出来はしまいかと望んで居るのだ。國際の仲裁や經濟的の協同は今日の有様ではまだ完成の域には達して居ねえが、其の效果に至つては毫も代表政體發生の當初に於ける效果に譲らねえ。此二つの者は尙其の主張者の希望を完全に實現しては居ねえが、將來文明社會の一新種となるべき第一の漸化であるかも知れねえ。否、確に其の第一漸化であると俺等は信じて居る。海牙の仲裁裁判は現に其の第一漸化の曙光を俺等に示して居るぢやねえか。

スベンサーは軍事と産業とを以て、社會の主要なる二大となし、而して産業に於ては自由放任主義、即ち極端なる個人主義が絶對に實現せられると説いた。併し經濟的の競争は生存競争の一舊態に過ぎねえ。パンを得やうとする個

人間の舊式の競争に過ぎねえ。だから、之を社會と社會との競争、國家と國家との競争に比すれば遙に低級のものだ。個人間の競争には自由放任主義を取つても損はなからう。が、團體間の競争ではコンナ無責任な、無道德な、無意識的な、跡に野となれ山となれの主義が何の役に立つものか。かう一寸は目を覺ましねえよ。太陽は天に沖して居る。社會は息もつかずに進歩して居るぞ。英國ばかりの世界は昔の事、今日では世界は列強の世界だ。英國人が島國的無智を笑はれたのは、最う百年前のことだ。今にして改めずんばだ、臍を噛む處ぢやねえ、耳を噛んでも及ばねえことになるだらうて。

### 現代人の疲勞

(一)

べらんめえ曩に『何處が面白い』と云ふ題で、現代文藝の不健全なる所以を指摘して、其槍玉にあがつた小説家や新體詩家を厭世悲觀罪の教唆者だと罵倒した。槍玉にあがつた人間には甚だ御氣の毒な話だが、個人的に何等の恩怨があつてのことではなく、唯我が文藝の將來を案するの一念と、此節の評論家が何も判つて居ねえ癖に高慢ちきなとを云ひくさるからだ。彼等は現代の文藝が一種の病患に罹つて居ることを知らねえで、何かと云ふと直コンナ事を云つて意張つて居やがる。曰く是近世の思潮を貫流する不安なる渴望なりとか、やれ現代の發展せる神経系統の高尙なる鼓動なりとか、やれ高尙なる人士の心裡に潜める不知の感覺なりとか、何とか云つて、自分を欺き又人をも欺いて居る

から堪まらねえ、偶々健全なる人間があつて、彼等の作や評論を攻撃するとやれ頭が陳いの、舊道徳を以て新道徳を律するのと云つて、何處々々までも勝手な熱を吹いて居やがる。新道徳が聞いて呆れら。自然主義だの、デカダンなど云ふ儼の生えた文藝上の傾向を今更引張り出して來て、やれ新道徳だの、やれ新人だのねえものだ。精神病學者の目から見ると、新人は呻人だ。所謂呻いて居る人間だ。精神病患者だ。軽いところで神経衰弱に罹つて居るのだ。馬鹿野郎!

現代の文藝は一わたり既に罵しつて了つたから、此上沒義道にも又復罵しらうとは思はねえ。併し現代の文藝が何せコンナに不健全かと云ふ原因に至つては、前回にはこれを示さなかつたから、今茲に例のデゼネレーションの著者マクス、ノルダウ氏によつて其原因の一つを書いて御覽に入れるのだ。

現代文藝の不健全なる原因の一は、現代人の疲勞である。現代人の疲勞は啻

に文藝の上へのみ現れては居ねえで、諸種の制度の上に著るしく現れて居る。だから此問題は單に文藝の上の問題ではなくて、有らゆる市民の生活に關する一大問題である。

然らば此疲労とは如何なるものと云ふに、疲労はヒステリーの親で、ヒステリーは疲労の子だ。是は例の有名なる精神病學者フエレー氏が曾て巴里の生物學協會に提供した報告の文面によつて明かなることだ。其報告は斯うである『余は頃者疲労と慢性ヒステリーとの間に存する酷似の例を示すべき數多の事實を観察した。ヒステリー患者の運動は不思議にも其均齊（不隨意的）を示して居るが、普通の健康者でも疲労の状態の下に在つては矢張り此均齊が現れて居る。ヒステリー患者の興奮性は其隨意運動の力が外圍の刺戟又は精神の示現によつて、感覺と營養機能との平行的變態に伴ひ、急劇にして通過的の變化を受ける證據だ。疲労の時に表はれる興奮もこれと同じだ。疲労は一時の經驗的

ヒステリーを起すもので、普通の健康状態からヒステリーとして示すべき諸種の状態に移り行く過程を示すものだ。だから、普通の健康者はこれを疲労せしむることによつてヒステリー患者と爲すことが出来る。ヒステリーを起すべき此等の原因は原病の研究から見れば、總て一の生理學的進行即ち疲労や活力の喪失に歸して居る』と。現代人は即ち此疲労によつてヒステリー患者となつて居るのだ。其證據はこれからズンズンと御覽に入れます。

(二)

俺等は行燈あかりの時代に生れて、電燈と瓦斯の時代に生活して居る。驛遞時代に生れて郵便電信の時代に生活して居る。鎖國攘夷の時代に生れて開國進取の時代に生活して居る。俺等は羽織袴を脱ぎ棄て、フロックコートを着た。足駄を靴に變へた。丁髷を切つて散髪となつた。唯是だけでもさてもく變化の多い時代に棲んで居ることかなだ。而して此變化、此急劇なる變化によ

つて、どれほど俺等の心神を消耗し疲勞したか判らねえ。否、コンナ時代を  
 経過して来た丈夫れ丈現代の人民が如何に心神を消耗し疲勞して居るかの程度  
 が現然と讀まれるから堪まらねえ。現代に生れて現代に生活して居る人間でも  
 俺等が次に掲げる數字を見れば、世の所謂文明的制度も亦ものゝ爲に、如何に  
 彼等が其心神を消耗し、疲勞して居るか、明かに判ると云ふものだ。

遠い事は云ひつてなして、明治三十一年の鐵道開業線の延長は僅に三  
 千四百八十一哩だった。夫が四十一年には五千二百九十二哩となつて居る。殆  
 ど倍加の發達だ。若し夫れ乗客に至つては、明治三十六年には多いと云つた  
 つて三千四百萬人位に過ぎなかつたのが、四十年には一億一百万人となつて居  
 る。僅々五年間に鐵道を利用する人間が約七千萬人増加した勘定だ。即ち七千  
 萬人の疲勞人を持へた譯だ。夫から馬車と電車だ。これも三十六年には三百三  
 十三哩だったのが、四十年には殆ど倍になつて五百八十六哩となつて居る。夫

から郵便局の數だ。こいつも三十六年には四千二百三個と云ふのが四十年には  
 六千六百九十七個となり、之にて引受る内外國通常郵便物が、三十六年には九  
 億一千八百八十六萬九千三百八十八通だったのが、四十年には十三億七千七百  
 六十三萬五千四百六十八通となつて居る。即ち僅五年の間に郵便物の遣取が約  
 四億通殖えた勘定だ。

以上列擧した數字を見た丈でも、現代人は疲勞せずには居られねえ。特に會  
 社の重役とか政府の當局者とかになれば、手紙にしたところが、日に幾十通、  
 幾百通の遣り取をせねばならぬか知れねえ。其中には口を發見けてくれなど、  
 のつまらねえ手紙が幾十通あるか知れねえが、さりとて封を切らずに皆棄て、  
 了ふ譯にも行めえし、封を切ればホンの一瞬間とは云ひ條、矢張り氣心を遣は  
 ずにはおられねえと云ふ順序だ。手紙を貰ふ人こそ可い災難だ。日常の劇甚な  
 る職務を別として、其外にコンナくだらねえ事に氣心を遣はねばならねえと云



ふのだから、現代人の疲勞するの、無理はねえ。夫から汽車と鐵道だ。日本のやうな小せえ國では、幸ひにかの英米病理學者が『所謂鐵道脊髓病』だとか『鐵道腦病』だとか云ふ特別な病氣のねえのが儲け物だが、これから段々と發達して鐵道線路が延長して來れば矢張りコンナ病氣が流行つて來るのは請合だ。其處の所迄行かねえでも一部鐵道事故の頻々たるのと、一部鐵道旅行中に經驗する間斷なき震動で、現代人が多大の疲勞を招いて居るのは事實だ。俺等が毎日毎日利用して居る電車だつて然うだ。他の重大なる事故は姑く措いて論せずとしても、あゝして他人同志が向き合つて座つて居る以上、如何しても貌を見合はさねえ譯には行かねえ。惚れた同志なら兎に角だが、他人同志が斯う向き合つて眼と眼とがピタリと合つたときのキマリ惡さと云つたらねえ。實に不愉快なものだ。而も俺等は毎日々々幾度となく、此不愉快な經驗を繰返して居るのだ。野郎はまだ可いが、若い女は嘸命が縮まるとだらうと可愛相だ。これ

で疲勞しなければ其人間は死んで居るのだ。文明が進めば進むほど、此種のくだらえ、役にも立たねえ氣心が多くなつて、人間は疲勞の上に疲勞するばかりだ。

(三)

次に現代の人民は如何して此疲勞を誤魔化して居るかと云ふと、夫は言ふまでもなく、酒だの煙草だの、興奮劑や麻醉劑を用ひて漸く生命を繋いで居るのだ。これは各國の統計がちゃんとその證據を示して居る。佛國では千八百四十一年の各人の煙草の消費額は〇・八キログラムであつたのに、千八百九十年には一・九キログラムとなり、英國では同く此五十年間に十三オンスから二十六オンスに上り、獨逸では〇・八キログラムから一・五キログラムに上つて居る。酒精の消費額もこれと同様、獨逸では千八百四十四年に五・四五クアルトであつた者が千八百五十七年には六・八六クアルト、英國では二・〇一リーターで

あつた者が二・六四リター、佛國では一・三三リターであつたものが四リターとなつて居る。日本ではまだコンナ統計は出来て居ねえが、葉煙草の收穫高は明治三十五年には八百三十四萬九千六百七十九貫であつたのが四十年には一千萬貫殖えて千八百十四萬三千三十三貫となつて居る。需要に對する供給の理屈から考へて見れば、よし其幾分か外國に輸出され、又此五年間に人口が幾千が増加したと見ても、各人の煙草の消費額が著るしく増加したと推測したつて、大した間違はなからう。酒類の醸造も亦此例に漏れねえで、明治三十五年には其醸造高は僅に二千二百八十七石であつたのに、三十九年には一萬九百八十五石と成て居る。日常の生活に必要な醬油は此五年間に百七十萬石から二百萬石となり僅に三割の増加をしか示して居ねえのに、酒類は殆ど五倍の増加とは驚き入つたものぢやねえか。而して夫相應に飲者も殖えて居やうが、各人の消費高も又驚くべきほど増加して居るのは争はれねえ事實だ。

現代人は難有くもねえ文明の賜物で、其心神を疲勞し盡くし、而して其疲勞を誤魔化さうとして、酒を飲み又煙草を喫ひの結果は果して如何云ふことになるか云ふと、言ふまでもなく夫は病氣だ。病氣で死ぬか、精神が狂つて自殺するのが落だ。これも各國の統計がちゃんど證據立て、居る。千八百九十一年にヴクトリヤ大學醫科大學の冬期講演に於てブラウンと云ふ人が發表したところによると、千八百五十九年から六十二年に至る五年間に、英國で心臓病のため斃れたものが、九萬二千人から二十二萬四千人に上り、神經病の無に斃れたるものが十九萬六千人から二十六萬人に上つて居る。日本では此の如き累年の統計は未だ出来て居ねえが、第二十八統計年鑑によると、死亡の病因中一番多いのが肺結核で七萬五千人、これに次々のが腦充血、腦出血、腦軟化で七萬三千人次が腦膜炎で六萬三千人だ。心臓病になるとずつと減つて二萬五千人と云ふ數だ。これらの病氣は皆現代の人民が餘りに其心神を消耗し過勞の結果起

る病氣で、酒や煙草の魔酔劑や興奮劑が大に與つて力あることも争はれねえ。其中でも腦膜炎は大抵子供の病氣で大人や老人には少ないが、此病氣に罹つて死ぬ子供は、概して大酒家の子に多いと云ふから、現代人が一時其疲勞を忘れんとして用ひた酒が祟りを爲して居ることは明かだ。此暑いのに數字づくめの議論なんかは、實に以て恐れ入谷の鬼子母神さまだが、何でも數字を掲げてあげつらになくは、ウムと言はぬが現代人の癖だから、粗笨極まる、べらんめえも實は詮ことなしに數字を並べたのだ。勘辨しねえ。

(四)

現代人は以上述べ來つた如く、慥に疲勞して居る。疲勞の例もこれで澤山だと思つて居るけれど、今一つ適切な例を擧げると、現代人は早老だ。身體が健全でまだく勞働に堪へ得る時期に早くも老衰して居る。現代人の老死と云ふのは、大抵四十五歳乃至五十五歳の間に起つて居る。有名なる眼科醫クリセイ氏

の五十年間の經驗によると、現代の男女が眼鏡をかける時期は、昔時よりもズツと早い。昔時の人は五十になつて、初めて眼鏡をかけたものだが、此節の間は平均四十歳で皆眼鏡をかける相だ。齒科醫の如きも此節の人間が齶齒に罹り、又は齒を脱落するの時期は昔時よりもズツと早くなつて居ると云つて居る。リーヴィング博士も亦頭髮に關して此節の人間は早老だと云ふことを説明して居る。若白髪や若禿頭は昔時では神經的の性病を有し、又は進取的の精神を有する者の専有だつたが、當節では一般の虚弱者の間に流行して居る。當節の人間は大抵三十になると頭が禿げ出したり、白髪が生え出したりして居る。これは慥に現代人が疲勞して居る結果、早く老熟することを示して居るのだ。まあ之で以て現代の人民は疲勞に疲勞を重ねて居ると云ふことに置いて扱此疲勞の子のヒステリーや神經衰弱が如何なる症候を諸種の社會制度の上に現して居るかを見るのが面白い。

昔時から酒に女は附物だ。現代人が一時其疲勞を胡魔化さうとして酒を飲むの結果盛んに女狂ひをして居るのは敢て怪しむに足らねえ。女も女、三つ指か何かで、『行つてゐらつしやいまし』『御歸り遊ばせ』風のおとなしい、通り一遍の女房ぢや中々ヒステリーや神經衰弱に罹つて居る奴の神經を亢奮する譯には往かねえ。いづれは『まあ随分ね』『可かつたわ』『仰しやいね』とか、怪しげな常軌を逸した言葉使をする女でなくては御意に召さねえことゝなる。夫が嵩じて來ると、コンナ甘つたるい言葉では中々眼が覺めねえ。刺戟が足りねえ。其處で謎のやうな、怒つて居るのかと思ふと喜んで居るやうな、馬鹿にして居るのかと思ふと大切にして居るやうな、非常な氣焰を吐いて居るのかと思ふと弱い音を吹いて居るやうな、如何とも解釋の付き兼ねる、すぢりもぢりの言葉使をする女でなくては御意に召さなくなつて來る。大抵の現代人はあま其處まで往かねえとしたところで、常住座臥面を見飽いて、額の何處には皺が幾條、又

其煩つべたの何處には幾個々々のそばかすがあるなど見抜きに見抜いた女房では、中々生活の疲勞が忘れられねえ、其處でつい藝者買や淫賣買ひを初めるかさなくば、小間ざわり、下げわり、乃至は女學ざわりなどをやり初めることになる。呆れたつて詮術がねえ。現代人の疲勞は如何しても此處まで落ち行かねば形がつかねえから詮術がねえのだ。

其處で女も考へた。通り一遍の良妻賢母主義では中々男の御意に召さねえと決まれば、勢ひ女は其存在の必要上種々の藝當をやらなければならねえことに爲つて來る。ダイヤやルビー入の指輪などをコテ／＼指に嵌るなんかは、既ら時代後れだ。何しろ當意觀面に（面白い熟語もあつたものだ）男の心を牽きつける趣向を凝らさなくてはならねえ。其處で歸天齋正一の弟子よろしくと云ふ風で、時計の鎖を斯う頸から引つけて、胸の邊にダリと下げなくてはならねえことになつたり、此暑いのに白い網を頭に被つたり、白い襟巻をしたたりし

て市中を練り行かねばならぬことになるのだ。一層の事、もう一つ奮發して裸體で以て道中をしたらば善男子善女人……ではなかつた現代の疲勞人やら苦勞人やらが随喜渴仰の涙を流す譯だが、裸體になると現代の畫工から俺等職業を奪ふのか怪しからぬと故障を容れられる虞があるので夫も出來ねえし、とあつて緋縮緬の長襦袢一枚で押出せば、巡查の御眼玉を頂戴しなければならぬえし、はて何か變つた眞似をして試てえ、圖抜けて調和を破り均齊を破つた形装をして、而して現代の疲勞男を牽つけやうと焦燥つて居る現代の婦人は餘所の見る目にも氣の毒な位だ。現代の女は斯くの如くにして疲勞し、竟に現代人の御多分に洩れねえことになるのだ。

(五)

當節の女が現代人の御多分に漏れなくなるのは、こればかりではねえ。所謂女のコンザムプシヨンが多いからだ。現代の男は其疲勞を慰すべく已むを得ず

して酒を飲み且女買をして居る。而して留守居の女房は夫と共に何にも云はずに糠味噌汁を嚙つて居るのが當節だ。ぶつく云つたところが始まらねえから詮術なしに黙つて居る。黙つて居らなければ却つて男の放埒を煽るやうなものだから黙つて居る。男は外で飲めや騒げの大亂痴戲をやつて居る間に、よし其處までは往かねえでも比較的其鬱さを晴す機會に接することが多い間に、家を守つて居る女房は、借金の言譯やら遣繰やら子供の世話やらで、見る影もなく面が窪れる。面が窪れば現代の疲勞人だもの男は益々家を外の遊興三昧に耽ることとなる。かうなれば比較的其老衰の期が早い女は益々早老する許りだ。其處で少し腕があつたり、金が自由になる女になると、男の面當にも對抗運動がして見なくなるのは當然だ。ソナナ事が續くと此夫婦の間に生れた子は先天的に變質して、さまで生活の疲勞を感じなくても、藍より出で、藍よりも青いとを遣り出すのだ。昔時の見世物ぢやねえが、親の因果が此子に報つて來る。

夫から女だつて愈々現代人の御多分に漏れなくなつて来れば、男と同様に何でも變つた事がして見たくなるのは怪むに足らねえ。遠くはダンヌンチオの『死の勝利』にかぶれて、女房子のある男と情死の道行を極め込んだ禪學娘、近くは某小學校の女教員が、表面では獨身主義を主張して居ながら裏面では二三人の男を咬へ込でいぢやついて居るなどは、實に面白い洒落ぢやねえか。途中で尻が割れて来れば災難だが、夫で死ぬまで判らなければ、世の中にこれほど面白い洒落はあるまいて。其當時に於ける當人の得意さ加減が羨ましい位だ。同様の産婆が『アレでも女教員ですか』と呆れて居た相だが、神田の伯母さんは昔時から時勢を知らねえ。當節の女教員は皆な此類だ。品行方正な女教員が居たら、夫こそ『あれでも女教員ですか』と呆れた方が可い。

論者或は曰くだ。これは現代人が疲勞して居る結果ではなくて、現代生活の千偏一律なるに飽いた結果だと。併し其飽くと云ふのが疲勞の別名だ。凡そ世

の中に千偏一律と云ふことほど人間に疲勞を覺えさすものはねえ。長い鐵線の上を爪立て、歩くほど世の中に飽きくするものはねえ。現代人が種々變つた突飛なことをして見たくなるのは、其原因こそ異れ、矢張り現代の生活に疲勞し居る自然の結果だ。夫に一つは現代の疲勞した男があれを喰ひ、これを喰ひ、喰ひに喰ひ散らした揚句は、餘程風の變つた、常軌を逸した女でなければ、其疲勞した精神や身體を亢奮することが出来ねえから、需要に對する供給で、女の方も變つた風を装つた男を釣り込む手段を講ずることになつて居るのだ。西洋の所謂コクエツトリーで性根を奪はれねえ男が少ねえやうに、世界が進歩して来れば、我が日本にも風の變つたコクエツトリーが流行るのは見て來たやうなものだ。現代の疲勞し盡した男に對しては、普通大抵のコクエツトリーでは役に立つまいて。

(六)

現代人は疲勞の結果、一部はヒステリー一部は神經衰弱に罹つて居る。だから此等の病人の注意を惹き、神經を亢奮するには、普通大抵の事では追付かねえ。物品の廣告などでも、昔時の様な引札や新聞の廣告などでは中々現代人の注意を惹きさうにもねえ、此に於て乎、醜惡なる屋外廣告も起つて來るのだ。其屋外廣告にしてもだ、普通大抵の工夫では通行人や汽車の乗客に煙のやうに見過されて了う。何でも思ひ切つて調和を缺き、思ひ切つて均齊を害し、思ひ切つて美の要素を無視したものでなくては、疲勞して居る現代人の注意を惹くことが出來ねえ。醜惡なる屋外廣告の繁昌するのも無理のねえ事だ。

醫士の言によると、ヒステリー患者は大抵其網膜の一部が無感覺になつて居る。而して其無感覺なる部分が相接觸して網膜の外半部を包んで居る相だ。道理で現代人の視界が大に混亂して在る通りに物を見られねえのだ。屋外廣

告を工夫する人間も、此廣告を見る公衆も等しく立派なヒステリー患者なのだから、此の節の様に思ひ切つて調和を缺き、思ひ切つて均齊を害し、思ひ切つて美の要素を無視した、醜惡なる屋外廣告の繁昌するのは無理もなからうぢやねえか。いか程之を慨嘆するものがあつても、又法律や規則でいかほど之を取締つても、其根本の病患たる現代人の疲勞を治さねえ以上は積では崩す賽の河原の子供の苦心だ。おほいきに憚りさんと贅六どもに笑はれるばかりだ。現代人の頭には市街の美とか、山水の美とかソナナ優美な餘裕のある思想があるものか。現代の生活はコンナ思想を養成すべく餘りに複雑で、餘りに經濟的で、餘りに病的に罹つて居る。近頃獨逸醫學界の泰斗エーリッヒ先生と云ふ方が、一回の注射で積年の梅毒を根治する大變な神藥を發明された相だが、ソナナ梅毒を治す藥なんかは要らねえ。夫よりも唯一回の注射で以て現代人の疲勞を醫し現代人のヒステリーや神經衰弱を治す藥を發明した方が、どれほど善男子善女

人の功德になるかも知んねえ。下手な薬を發明して益々社會的罪惡を跋扈せしむるやうでは、醫は仁術でなくて酷術だ。當今の大醫博士が神經病の注射療法——有効にして唯一回の注射で以て神經病を治す薬を發明しねえ以上は、隅田の水は滾々として盡きねえでも、人間の種が早晚盡きて了わ。

屋外廣告のとで想ひ出した。當節の屋外廣告の中には随分思ひ切つた趣向を凝らしたのもある様だが、彼等はまた學理的に現代人を研究して居ねえので赤色で以て塗つた廣告の少ねえのが手落だ。元來ヒステリー患者は何でも赤い色を偏愛するものだ。ビネー氏の經驗によると、何でも動物は發動力の促進によつて快感を覺えるものだ相だ。だからドンナ動物でも先天的に此發動的の感覺と印象とを好む。而して色々の色の中で赤い色が最發動的の印象を人間に與へる。ビネー氏は半身麻痺の女性ヒステリー患者に關して此様な經驗を報告して居る。『アメリカ、クル（患者の名）の麻痺して居る右手にダイナモを持

たしたら、其握力は僅に十二キログラムを示したに過ぎなかつたが、これと同じ時に赤色の半圓盤を熟視せしめたら、其握力は俄然として二倍の力を示した』屋外廣告者が盛に此赤い色を使はぬのは嘘だ。昔時から緋縮緬には力山を抜く頂羽でも一本參つて居るぢやねえか。此處に氣の注かねえのは迂濶だ。當局者だつて然らぢやねえか。電柱の廣告に限つて、十一月から、赤色のものを禁ずる相だが、赤色で塗つて看板を如何する氣かい。馬鹿！

(七)

同じ屋外廣告でも、所謂東西屋になると、看板の廣告よりも此點に注意して居るとが多いから感心だ。東西屋は種々様々の旗をたて、市中を練り歩き、又其中の二三人は必ず破天荒な形装をして居る。而して疲勞して居る現代人に盛に猛烈なる刺戟を與へて居る。併し其形装も餘り破天荒過ぎると其筋の御眼玉を頂戴するから餘程差控へて居るやうだが、夫でも兎に角種々様々の醜惡な



る形装、即ち美の要素を無視した形をして、盛に現代人の注意を惹いて居る。特に感心なのは、其旗も赤いのが多く、東西屋の服装も赤い色の着物を着て居るのが多いことだ。ヒステリー患者の發動力を促進するやうに出来て居るから感心だ。而して此東西屋の廣告には賑かなと云ふよりも寧ろ騒々しい、耳の潰れさうな樂隊が入つて居るから理想的だ。音樂だつて然らうぢやねえか。現代の音樂は昔時の音樂のやうに、笛や三味線などの生優しい、音の低い、細い、調子ののろい奴では人間に刺戟を與へることが出来ねえ。そこで盛にブカ／＼ドン／＼と樂隊を入れて騒がなくてはならねえことになる。東西屋は實に旨くこれを利用して居るから感心だと云ふのだ。併し現代人が段々疲勞してくと、東西屋も此節のやうな皆に切れ切つた俗曲などでは、中々現代人の視聽を動かすことが出来なくなるに相違ねえから、遠からずしてワグネルの譜などが奏せられるやうになるのは請台だ。而してワグネルの中でもトリスタンとイ

ソルデ、特にバルジファルやブルノ一の『夢』のやうな何だか譯の判らねえ音樂などが東西屋に利用されるに相違ねえ。何でも疲勞した現代人の視聽を動かすにはブカ／＼ドン／＼ヂヤン／＼ピー／＼と音が調和しやうがしまいが、ナソソことには御構なしに多種多種の樂器を入れて、盛に現代人の神經を感亂するか、さもなければ譯の判らねえ、所謂神祕的な、夢のやうな、現のやうな、約束があつて約束を果さぬ、希望があつて忽ちに其希望が消滅するやうな音樂でなくんば、逆も現代人の御意には召すまい。東西屋も進歩して來たら其御意に召す者を現代人に提供して呉るのは請合だ。何だと、日本人の耳が發達して居ると、獨逸の音樂家がぬかし腐ると、日本では耳のねえ方が寧ろ生活に愉快だと、馬鹿を云へ、手前ども所の音樂のさまを見る、彼でも健全な音樂か。だから俺等は日本の東西屋が、遠からずワグネルやブルノイを利用すると云ふのだ。以上論じ來つた通り、疲勞した現代人に刺戟を與へて、其注意を惹くには何

でも彼でも美の要素を無視した、途力途徹もねえ者でなくては間に合はねえ。其處でエツザツゼレーションと云ふものが必要になる。新聞の記事が即ち夫だ。純客觀的の筆で以て、嚴密なる自然派の書き振等をまねて居ては、疲勞した現代人が讀んでくれる筈がねえ。其處で筆がつい針小棒大になる。見出しには奇抜な奴をつけて讀者の注意を惹くと云ふことになる。嚴密なデスクリプシヨンは科學に譲つて置いて小説や、記事は何でも面白をかしく人に讀ますと云ふのが肝要になつて來たのだ。べらんめえが斯うして漢語を入れたり、英語を入れたり、氣障なまねをして居るかと思ふと、俄に口が穢くなつて『ねえ』とか『めえ』とか云ひ出すのも、畢竟は疲勞した現代人に猛烈な戟刺を與へようと思ふからだ。癪に觸るなら如何とも勝手にしろい。

(八)

疲勞した現代人に讀ます爲に疲勞した現代人の作つた者だもの、現代の小説

や新體詩が此例に洩れる筈がねえ。著想と云ひ筆致と云ひ厭世悲觀の情に充ち満ちて居るのは無理もねえ事だ。而して其厭世や悲觀も普通大抵の厭世や悲觀ならば昔時から厭世や悲觀が日本文學の殆ど特色と歌はれて居る位だから、然らば没義道に云ひけなす必要もねえ。所謂合理的の厭世や悲觀ならば、文學上寧ろ面白いものかも知んねえが、現代の小説や新體詩に現れて居る厭世や悲觀は病的のものばかりだ。狂者や變質者の眼から見た人生觀や世界觀が其多分を占めて居る。是は前々から云つて來た通り、疲勞した現代人を刺戟するには普通大抵の小説や新體詩では逆も其效能がねえからだ。其中に描かれる人物や事件は殆ど皆常軌を逸して居るもの許りだ。所謂自然派と云ふものも、事實を事實の通りに書くのは可いが、其事實が常軌を逸した、美學上何等の趣味のねえ、どころか醜惡極まる事實や人物を捉へて來るから可けねえと云ふのだ。或はコンナ醜惡な事を書かなくては、疲勞した現代人の注意を惹くことが出來ねえ

かも知れぬが、小説や新體詩は屋外の廣告とは事變り、廣く一般の俗人共を相手にして居る者ではねえから、讀者の中には、否中にはねえ、大抵の讀者はソナ醜惡な小説や新體詩には面を背けて逃出して居る。唯其作家や批評家や一部の少數なる讀者がヒステリーに罹り、神經衰弱に陥り、若くは變質して居るが爲に、ソナ醜惡極まる小説や新體詩が立派に印刷されて出版されるのだ。だから現代の文藝に現れて居る醜惡なる思想は單に現代の作家と批評家の疲勞を證明して居るものと斷言することが出来る。

元來自然派の小説と云のは、其名の示す通り極めて自然であるべき筈だ。否自然であるべく舊派の荒唐無稽なる小説に對して起つた一種の反抗運動だ。だから一寸其名を聞いただけでは、如何にも勿體らしい運動だ。併し現代の疲勞した作家は、中々ソナ自然で満足するやうな健全な人間ぢやねえ。其處で猥褻と云ふ要素を入れてこれを引立たす様にせねばならねえことになつたのだ。

論より證據自然派の創立者たるゾラの小説は猥褻を除けば外に何にも取柄がねえ。ゾラといふ男も狽い奴だから考へたものだ。自然派、自然派と云つて打つて出た所が、何か特色がなくては買つてはくれまいと、苦心慘澹した揚句が猥褻と云ふものに氣が注いだのだ。なるほど疲勞した現代の人間を亢奮するには性慾の刺戟が有つて來いだ。此點に氣の注いだのは流石に自然派の創立者ゾラ様々々と感心するより外はねえ。世の中が進歩して便利になればなる程人間は遊んで居て飯を食ふことになる。遊んで居ると云つても、頭を遊ばすと云ふのではねえ。身體を遊ばすのだ。頭は文明が進むにつれて益々酷使せねばならぬやうになる。但し身體を遊ばすと云つても、夫は身體の大部分を遊ばすと云ふことで、或一部は日夜これを使用して居るのが現代人の生活だ。或一部とは何處かと云へば、即ち陰部だ。此點から見れば、差詰め現代人は盛に頭と陰部を使用するから、進化論上、漸化の理と自然淘汰の法則によつて、人間は竟に頭

と陰部ばかりの化物とならぬとも限られねえ。器械が発達すれば手や足は固より要らねえ。又薬物學が発達すれば肺や心臓や胃も要なくなるに相違ねえ。而して人間は頭と陰部とで生きて居ることになるかも知んねえ。其處で此節の自然派の小説家が遠く此未來を見越して、人間の二大要素の一たる陰部に關する作用に重きを置いて、盛に猥褻なことを書く……こいつは考へ物だ。自然派の小説を辯護すれば、まあコンナやうな譯さ。尤も現代人とても、身體の全體が疲労して居る上に、其一部も使ひ過ぎて疲労して居る。此事は、ヨヒンピンとか荒唐丁幾とか云つて騒いで居るのを見ても判ることだが、兎に角疲労した現代人を刺戟し亢奮するには、世の常の小説の筋では却て食慾を減するばかりだ、其處で猥褻と云ふ性慾的の藥味が混入せられる事になつたのだ。現代人の疲労はざつと件の如しだ。讀者は讀んで見て却て疲労を覺えたかも知れねえさを見やがれ。

### 現代人の婚姻

#### ▲人間の二大本能

べらんめえ曩に『何處が面白い』と云つて、現代の小説が厭世悲觀罪の教唆罪を犯して居ることを指摘した。而して其筋でも徒らに風俗壞亂罪ばかりを氣にしねえで、ちと此教唆罪を檢舉した方が可いと注意して置いた。夫かあらぬか、其筋でも此頃は少しく目が覺めて來たと見えて、ホト、ギスの『をんな』を安寧秩序を害するものだとして、發賣を禁止した。かくてこそ其筋だ。實に頼母しい。小氣味の可い處置だ。之でこそ幾分かべらんめえの癪も下つたと云ふものだ。

扱て其ホト、ギスの『をんな』にはドンナ事が書いてあるか、俺等は固り好きこのんでソナナ不健全な、安寧秩序を妨害するやうな小説を讀んで試たくも

ねえから、讀まねえが、何でも玄耳君の紹介によるてえと、實に大したものらしい。『親が育ててくれたといふ事は思かも知れないが生んでくれたと云ふことは少しも恩でない』とか『もう此上親孝行をさせられて堪まるものぢやない』とか『人の妻だの母だのに爲つて碌な事は有らう道理が無い』とか『子供をこしらへて乳を吞ませて育てたりするのが何の誇りとならう』とか、有りと有らゆる不健全な、利己的な、我慾的な、非社會的、非種族的の觀念が博覽會のやうに陳列せられてある相だ。困つた厄介物もあればあるものだ。夫が男の作ならばまだしもだが、あらゆる海老茶式部の作と來ては呆れて物が云はれねえ。何に、ソナナ女流作家は強姦して了へと。夫は餘りきびしい。之と云ふのも、畢竟は現代人の婚姻が不倫極まる關係から行はれて居るからで、俺等はソナナ女流作家を強姦するよりも、先づ現代人の婚姻を呪ひたいのだ。併し俺等の之を呪ふのは這般女流作家の呪ひやうと呪ひ方が全く違つて居ら。

一體現代人の婚姻てえのは一種の淫賣だ、詳しいことは後になつて緩りと話すから此處には云はねえが、兎に角日常コンナ間違つとる婚姻の有様を目撃して居る現代の青年男女だもの、婚姻に關して、隨つて其結果たる親子の關係に關して不倫な觀念を抱くやうになるのは無理もねえ事だ。むづかしいことは云はねえ。人間が斯うして生きて居るのは何の爲だ。自分の爲に生きて居るのではねえぞ。尤も自分が生きなければ、他の利をすることは出來ねえが、自己を保存するのはやがて種族を保存する意味となるのだ。進化論によれば、人間に其の一舉手一投足が悉く之に依て支配せられねばならぬ二本能がある。其本能は何かと云へば、自己保存の本能と、種族保存の本能が夫だ。先づ自ら生きて、而して後餘裕があれば子孫を産んで之を生かすと云ふ事だ。世界に人間の種が絶えねえのは此兩本能があるからで、此兩本能がある爲に、文明の大事業は子々孫々に傳はつてこゝに初めて完成するのだ。而して此兩本能が最も純

然たる形に於て表はれて居るのが、餓と戀だ。餓を充たさうと思ふのが自己保存の本能で、戀を充たさうとするのが即ち種族保存の本能だ。『をんな』の女作者：否、現代の青年男女は此處の道理を判へねえから、つい『何時までも娘で居たい』の、『華やかでありたい』の、『自由でありたい』のと、身分不相應な願も起すのだ。

▲妻と母との誇

だから、男でも女でも此二大本能に忠實であれば、先づ人間の型に嵌つた人間だ。尤も普通以上の立派な人間になれば婚姻はしなくても、随つて子は産なくとも、他の社會的、國家的、種族的の事業に由つて永遠に自分を後世に傳へると同時に、種族の發達に貢獻することが出来るから、別に婚姻はしなくても立派に人間の義務を盡くして居ると云ふものだ。ソナ立派な人間でねえ以上は、人間はまあ當分のうちは正當な婚姻をして、子を産んで、自己の生命を不

朽に傳へて置きさへすれば、よしや自分は社會に對して何等の貢獻をなさねえでも、人間の義務は十分盡したと云ふものだ。自分がやらなければ、子孫のうち誰かがやつてくれると云ふ自覺と望みがあると云ふものだ。現今の文明は如何して今日の域に達したかと云と、夫は人間が豫め企てたエツフィエーションによると云ふことは論ずるまでもねえことだ。ベンチャミン、キツ下の如きは最も猛烈に此説を主張する一人で、ダーウキンの進化論の意味は、ワイズマンに至つて一變したとさへ云ふて居る位だ。むづかしい議論は止にして、兎に角世界の文明は、利己的、我慾的な現在主義によつて支配せられねえで、犠牲的、他愛的な未來主義によつて支配せられて居るのが事實だ。人間の生れたのは、或點から見れば偶然かも知んねえが、或點から見れば種族保存の大任務を背負つて居るのだ。此任務を果すには人間は如何しても婚姻をせねばならねえのだ。『何時までも娘で居たい』の『華やかでありたい』の『自由でありたい』

のと贅澤は云つて居られねえのだ。第一コンナ觀念は一種の夢想に過ぎねえ。其恐るべき結果は後に至つて述べるから此には云はねえ。夫から親が俺等を生んでくれたのは、俺等に種族保存と云ふ一大任務を與へたので、實に感謝の至りと云はなければなんねえ。此任務を面倒臭えと云ふものは變型者だ。親が俺等を生んで、而して其大任務を果す能力が出来るまで俺等を育て、くれたのは實に至大の恩であることは無論の事だ。随つて『此上にも親孝行』をするのが當然だ。『人の妻だの母だの』になるのは世間から最高の尊敬を受ける唯一の條件だ。『碌な事は有らう道理がない』とは何の事だ。人の妻となり、母となるによつて人間は種族を保存して居るのぢやねえか。近い處で、銀杏返で居れば人にも調戲はれるし、電車に乗つても、人が席を立ててくれねえが、丸鬚で居れば人にも調戲はれず、電車に乗つても人が快よく席を立ててくれる。子供を抱いて居れば尙更のことだ。現に俺等は母たり、又母たらんとする女に對して此

の如き尊敬を拂つて居るぢやねえか。藝者や、女郎や、淫賣など母たり得ざる女に對して席を譲る奴は助倍の外にはねえ。俺等は何が故に日常女に對して尊敬を拂つて居るのかと思ふ。此處の道理を能く考へて見ねえ。弱い者に席を譲るのではねえぞ。若し弱い者に席を譲らねばならねえと云ふ事なら、金満家は日雇労働者に席を譲らねばなんねえ事になる。子供をこしらへて乳を吞ませて育てたりするのが何の女の誇りとならう！『呆れて物が云はれねえぢやねえか。ソナ奴が電車などに乗れば席が空いて居ても、座らせねえで置け。叩き出してしまへ。凡そ世の中に女のすることは澤山あるが、其中で子を生んでこれを育てるより誇りとすべきものはねえ。ソナ了見から『人間と云ふものがイヤになつた、生きてるのが悪いのだ』などとほざくことになるのだ。勝手に死んでしまへがれ。手前のやうな奴が一人死ねば死んだだけ世間が助かる譯だ。

### ▲生殖の神聖

何！淫祠邪致！男根や女陰を祭つてあるから淫祠だと。だから現代人は話せねえと云ふのだ。虚偽が多いと云ふのだ。男根や女陰を祭つてあるから、夫を淫祠だと云ふなら、文運隆盛、智徳兩ながら完美して、人民の理想も現代よりは遙に遙に勝つて居た希臘時代の風俗を如何云ふ積か。希臘人は、男女両性の關係を如何にも自然に且公平に觀察して、人體の有ゆる部分を悉く神聖なものだと考へて居た。だから臆面もなく裸で道中をして居たぢやねえか。彼等は男女の交接を以て神聖な再生の唯一の手段として居て、現代人の爛熟した智性中に求められるやうな、卑しい、穢ねえ暗示だの思想だのを起さなかつた。彼等は此手段を以て、宇宙間に存する有らゆる生命の淵源として之に向つて非常なる感謝の意を表して居たのだ。だから希臘人は此活動に使用せられる機關を尊敬するの極、時に其形を寫出して、殿堂や公會堂や住居の完全を表彰する

の象徴となし、或は繁殖を具象する爲特に諸種の神を案出して、之を禮拜して居たぢやねえか。希臘時代ではコンナ象徴は到る處にひろくして居た。希臘時代の青年は、決して近世の不自然極まる教育の爲に欺かれて、黒暗々裡に葬り去られる様な目に會はなかつた。生殖について愈利害を感じる年頃になれば、男女は互に交際しても差支がねえとしてあつたから、其想像も決して危険な邪徑に迷ひ入ることはなかつた。故に希臘時代の青年は決して早熟の欲望に襲はれなかつた。現代の青年が種々の手段を盡くして、百方これ知らざらんと力むるにも拘らず、内密で最も忌はしい淫亂な原因から之を知り初めて、竟に神經衰弱症に罹るの類とは、同日の談にあらずだ。

敢て西洋の例を引くまでもねえ。此の如き例は日本の太古にもザラにある。古事記などを讀んだ人間は皆氣の注ぐ事たホトと云ふ語が臆面もなく紙上に散見して居るぢやねえか。何とか云ふ神さまは火の神さまを産んだので、ホトが



火傷をして黄泉の國へ行かれたと云ふことも書いてあつたやうに思ふ。實に無邪氣なものぢやねえか。就中かのみとのまぐはひの一條に至つては實に振つたものはのだ。伊井諾尊が『あはなりく〜てなりあまるところひと〜ころあり』と云れると、伊井冊尊が『あはなりく〜てなりたらぬところひと〜ころあり』と云はれる。然らば其なりあまるところとなりたらぬところとを合して見ようと云ふので、天の磐倉でのみとのまぐはひ一條は、滑稽に類して居るだけ、夫だけ純潔で眞面目で、一點の虚偽を交へて居ねえ。其處へ來ると耶蘇は駄目だ神がアダムの肋骨を取つてイブを拵へたと。笑はせあがるな。耶蘇の創世紀は既に偽を以て充ち満ちて居る。

兎に角繁殖の行爲は古代にあつて實に神聖な者とせられて居たに相違ねえ。夫が段々後世になつて濫用せられ、濫用の結果如何にも始末に終へねえことになつたものだから、『男女七歳にして席を同じうせず』とか云ふ途方も

ねえ儒教の教訓も出來、又『世界の終局は近し、肉體の快樂は最も恐るべき罪なり』とか云ふ嘘はつかしの耶蘇教の教訓も出來たのだ。

▲生殖器の露出

生殖は有機體の最も莊嚴な作用で、極めて神聖なものだ。随つて之に使用せられる器官も亦極めて神聖なるものであるべき筈だ。夫が一部滅茶苦茶に濫用せられ、一部極秘密にして人に知らさねえやうにと勉むる結果は、爛熟した現代の青年が『不倫な關係から之を知り始め、而して無闇に之を濫用する結果は、例の神經衰弱症に陥るのは無理もねえ事だ。で、此節では大分此點に氣の注いだ人間が出て來て——日本では未其處んとて迄往かねえからコンナな極端論者は出て來ねえが、西洋では随分と出て來たらしい——而て盛んに……とまで往かぬが、随分熱心に性慾教育と云ふもの、必要を論じて居る。近頃伯林の或劇場に上つた何とか云ふ評判のたつた芝居も其例だし、何とか云ふ

會を拵へて、其會員が眞裸で、禪は無論の事、布片一つ着けねえで會合するて  
 え奇妙奇體烈な會が出来たとか、出来るとか云ふのも其一例だ。成程西洋人は  
 平生から洋服で身を固めてるから、男でも女でも相手の肌を見たら變な氣にも  
 なるだらう。だから、コンナ集會や運動の流行るのも無理はねえ事だ。其處  
 へ來ると日本人は難有てえ事には常住座臥、男や女の肌の一部を見てるから、  
 一寸危険な思想を起す氣遣ひがねえ……とは云ふもの、赤い蹴出しの間から、  
 ちよいくと女の白い脛が隠見すれば、久米の仙人ぢやねえが、えならぬ色な  
 らねばなんと吐かす野郎が多いに相違ねえ。現代人は之を名けて猥褻とか風  
 俗壞亂とか云ふんだが、一層の事眞裸にしてえならぬ色の底の底までも平生野  
 郎に見させてさへ置けば、いざ鎌倉てえ折は、大抵の人間なれば『これ見給へ  
 や諸軍勢』てつて佐野の源左衛門から笑ひ返されて敗亡するのは知れた事だ。  
 性慾に關する西洋人の議論は極端かも知んねえが、一部實に現代人の急所を衝

いてる一大眞理だ。何でも物は祕密にするから見たくなつたり、知りたくなつ  
 たりするので、性慾の關係に於て特に然りとすだ。現代の少年や青年が此様に  
 して生殖の作用や器官に關して無智なる結果は終に不倫なる關係からして之を  
 濫用し始め、天下の英雄豪傑皆然りと惡悟に悟り出のは無理もねえ。  
 生殖の作用や器官に關する現代青年の知識にして既に然りとすれば、人生の  
 初にして又終ともいふべき男女の婚姻に關して、不倫極まる觀念を抱くに至る  
 は當然の事だ。否、婚姻に關して不倫極まる觀念を抱いて居るのは、單に現代の  
 青年のみぢやねえ。父様も母様も、伯父も伯母も、兄も弟も、姉も妹も皆此間  
 違つた觀念を抱つて居るのだ。學者も政治家も宗教家も藝術家も、富豪も貧乏  
 人も等しく此間違つた觀念を抱いて居るのだ。然り我現代人は特に此婚姻に關  
 してデゼネレートした觀念を抱いて居るのだ。近世經濟界の組織は、一毫の假  
 借する處もなく、此自然の状態を破壊して、現代人は歩一步滅亡の境に近づい

て居るのだ。性の淘汰を無視し、自然淘汰の法則を無視する人間が、よしや一時は経済的の關係より、榮耀榮華を爲盡しても、忽焉として其夢から覺め來るのは明かなことだ。其理由は跡廻しとして置いて、俺等は先づ現代人の婚姻が果して如何なる動機によつて行はれて居るか、其状態に就いて少しばかり研究して見ようと思ふのだ。

### ▲X君と其夫人

男と女との間には唯二つの關係があるばかりだ。自然的なる相互の牽引によつて、意識的又は無意識的に、子孫の出生を目的とするものと、單に我慾の満足だけを目的とするものと、此二つがある許りだ。眞正の婚姻と云ふのは前の婚姻で、後の一寸見にはどれ程道徳に適つて居ても、畢竟一の淫賣に過ぎねえ。現代人の婚姻てえのは、皆な此我慾を満足する爲の婚姻だ。コンナ婚姻をする人間は、とれほど立派な面付をして居やがたつて、蠟燭町の淫賣婦や

後家瞞と同じだ。敢て問ふだ。自分を愛して居ねえ阿魔に助けられる野郎と、更に戀しいとも思はねえ金満家の跡取娘や、權勢家の娘つ子を追駆け廻す野郎とは、果して何處が違つて居るかだ。僅少ばかりの目腐金を得ようつて、何處の馬の骨か判らぬえ野郎と寝やがる藝者や女郎や淫賣と、婚姻の報償として、位階や衣服や、裝飾品、時としては日常の麵麩をやるだけだと云ふにさへ迷つて、言葉もかけて見ねえ花髻と向き合ふて貌を眞赤にして居る花嫁とは、果して何處が違つて居るかだ。曰く、其動機に於ても、其行爲に於ても、其名義に於ても二者の間には何等の差異がねえのだ。

元來人の父や母たるものは、子や娘に向つて最高の尊敬を要求すると共に、自分も亦最高なる道徳の模範として、自重自愛せねばならぬえ筈のものだ。處が現代人の父や母になるとソナ心かけは薬にしたくてもねえ。而して其言草が面白え。コンナ行末の望みがある縁談を斷るのは實に馬鹿らしい。コンナ良

縁を嫌ふのは沙汰の限だ。とか何とか云つては娘を邪道に引入れて居やがる。此やうな父や母は一種の女術だ。昔からよくある例の親とか子とかを養ふ爲に強ひて身を憂竹川に沈める女と、奇麗な衣服を着て、甘い物を食つて、物見遊山がしたさに、強て金着と婚姻する現代の花嫁とは、其節操と、其恥辱に於て果して何の高下があるかだ。孰も此方も手套を穿めなくては、觸れ兼ねる代物ぢやねえか。何でも男女間の同盟は、いづれか一方が、之によりて得らるべき物質的、我慾的の利益に目が眩めば、既に立派な淫賣だ。

孫のやうな小林孝子と、祖父さんのやうな田中伯との間には、果して雙方間に自然的の戀愛が成立して居たか如何は、一大疑問だ。若し當時の新聞紙が罵倒した事實を眞實とすれば、小林孝子は立派な淫賣だと云つても可い。否、小林孝子ばかりが淫賣ぢやねえ。現代人の婚姻は總て是淫賣であるのだ。米國などではコンナ事は平氣の平左で行はれて居る。マクス、オーレル氏の「チヨナ

サンと其大陸」を讀だ人間は、誰でも次の話を肝銘して忘れぬえに相違ねえ。場所の名は忘れたから今擧げる譯には往かねえが、何でも東京から大阪へ行く汽車の中の出来事だと想像しねえ。其の汽車の中に花恥かしい妙齡の一美人が乗つた居つた。其處で此美人と同車して居た或る助倍な奴が非常に胸騒ぎをして、同伴のよぼく爺さんの手前も顧みず、色々話をしかけると、娘も馴しく之に答へて、汽車が名古屋邊りに著く頃には愈以心傳心の妙味となつた。しめたと思つて居ると、汽車が名古屋に著くや否や、其よぼく爺さんが俄に娘を急し立て惶惶下車了つた。で男も引續いて汽車を下た。而した娘の跡を追つて、一緒にの宿屋に泊つたが、氣が氣でねえので、一體其娘は何處の奴かと帳場へ往つて宿帳を引繰返すと、某町某番地と云ふ肩書の下に、驚いた驚いた Mr. X and his wife と而かも筆太に麗々しく書てあつたとさ。何の事だい。

▲當世學士の淫賣

女の方の淫賣的婚姻は、後に至つて述べるやうに、事情已むを得ねえ場合もあるもので、少しは寛大に見ても差支ねえが、野郎、而かもだ、堂々たる帝國大學の卒業生學士にして、進んで淫賣をやるとは沙汰の限だ。曾て某富豪の爺が娘の嫁金を選擇すると云ふんで、王子の別荘に若手の學士を呼んで園遊會を開いたことがある相だ。而して其折に爺が娘をして相方の選擇をさせたところが前藏相の何某と現今は仁川あたりは何をして居るか判らねえ何某と、二人の學士に白羽の矢が立つた。併しいくら淫賣だつて、同時に二人一緒に買ふことは出来ねえので、アレかコレかと娘が迷つた結果、仁川の何某は落第して、前藏相が及第した。否、前藏相が及第したと云ふよりも、其何某と云ふ學士が娘の見立て、以て終に大藏大臣の地位を儲け得たと云ふのが眞實かも知んねえ。其時仁川の何某が前藏相を排斥して見立の試験に及第して居たら、東京市の收賄

事件だの、深川區の選舉事件だのに彼様なケチも付けられねえで、美ん事成功者の何某と同様、大藏大臣の地位を儲けて居たかも知れねえに可哀相な事をしたものだ。餘談は置いて、兎に角小石川の殿さまは此場合に立派な淫賣をやつたのだ。而して其折園遊會に集まつた數多の綺羅星の如き諸學士は、田舎の遊廊の女郎同然、手の可いひきつけをしたと一般だ。堂々たる帝國大學の教授諸先輩にして、既に立派な淫賣をして居る奴が澤山ある世の中なんだから、コナナ事は敢て珍らしくもあるめえが、帝國大學の學士や學生は、此事あつてから彌が上に滔々として墮落して了つた。而して天下の青年も靡然として此好模範に倣ふに至つたのだ。

夫から近頃何處の大學でも、好成绩を以て卒業した學士は、直と金持や權勢家の娘の爲にさらはれて了ふ風習がある。金持や權勢家に取つては種族改善の目的上、至極結構な事かも知んねえが、男の方では大迷惑だ。迷惑だと思はね

えのは淫賣に馴れて卑しい根性を有つて居るからだ。第一一代で金持や權勢家になつた奴の家族はまだ活氣が満ちて居るけれど數代續いた金持や權勢家は大抵變型して居る。随つて其家族は大抵滅亡して居るのが常だ。ソナナ家族の娘を婿にしたつて、生れる子供が變型して居れば詮方がねえちやねえか。親の報いが此子に廻つてくるのを見るのは眞人間のする事ちやねえ。

……と云ふのも、畢竟は現代の社會と經濟の組織とが間違つて居るからで、現代青年の意氣地なさのみを攻撃するも實は可哀相な譯だ。かう見ねえよ、何處の役所や社會へ往つたつて、學才ある者、經驗ある者が重く用ひられて居るかと云ふと、ソナナ氣ぶりは寸毫もねえちやねえか。而して大抵は重役や權勢家に縁故あるものだけ重く用ひられて居るのが當節だ。此縁故さへあれば、ドソナ馬鹿な人間だつて容易に高い地位を得られるのだ。此時に當つてだ、誰が眞面目に勉強して會社や役所の爲を思ふ奴があるか。誰が人生を眞面目に解釋

しようとして試みる奴があるものか。優等な成績を以て學校を卒業した奴ですら、強て淫賣をやらねばならねえ。現代に生活して居る人間だもの、成績の好くねえ奴が、金持や權勢家の娘を引つかけようと焦慮するのは寧ろ當然の事だと云ひたくなる位だ。かくて社會の道德が滔々として墮落し、現代人は歩一步滅亡の境に進み入つて居るのは、是亦寧ろ當然の勢ひちやねえか。

▲不合理なる經濟組織

現代の社會や經濟組織では、何でも金持や權勢家の娘に引さらはれるか、引かけるかしなければ、生在競争には必定敗亡するに相違ねえ。此に於てか、憐むべく卑しむべき野郎の淫賣が滔々として風を爲して居るのは無理もねえ。併しソナナ淫賣共の生活に神聖な理想などが固よりあらう筈がねえ。だから其生活は變型の生活と毫も變る處が無のだ。變る處がねえ許りちやねえ、此等の淫賣共は絶えず理想の缺乏を意識するので、主觀的に不幸を感じることは變型

者よりも一層甚だしい。彼等は無論盲目ではねえが、生活の光明は淫賣の罰で全然奪ひ去られて居る。此に於てか、夫婦間の義務と二親和者を結合せんとする自然の努力との衝突は、永へなる悲劇を演ぜずして済むものか。而して此場合では愛と云ふ實質が、全然婚姻と云ふ状況に監禁されて居るのだから、實質と形式とがこゝに又大なる苦闘を始めねえ譯には往かぬ。其結果は離婚と云ふ忌まはしい現象となつて現れて來ても詮方がねえと云ふものだ。否、離婚となつて現れればまだしも幸福だ。一寸碁を打つにした處がだ、亭主が鼻に井目も置いてかゝらねばなんねえと云ふ家庭が如何して疲勞して居る現代人に辛抱が出来ものか。其處で何か足りねえ、氣に喰はねえと暗闇に手探りで歩く途端に、ズドンと顔に衝突するのが例の女買か、さもなければ妾け狂……と云ふのが相當の順序なんだ。其處で女房も亭主の向うを張つて役者買を始めるとなれば滅亡の運命が最も完全に、且最も急速に廻つて來ると云ふものだ。もう一つ

其間に生れた子が變型者となれば、實に世話のねえ事だ。

現代人の婚姻はかくの如くにして、全く其自然の目的と趣旨とを失つてゐる其處で文學者と云ふ荷厄介な奴が現れて危険極まる解釋を施す様になるのも無理はねえ。其言草が面白え。曰く戀愛と婚姻とは元來多くの場合に於て脊中合せのものだ。俺等は無論日比谷の大神宮で立派な婚姻式を擧げた。だけど俺等が眞情の發露は決してかゝる婚姻式の爲に妨げられはしねえと。斯うだ。而して其次の曰くが最も振つて居る。俺等がコンナ事をするのも罪は全く現代の經濟的組織が不合理だからだ。かう見ねえよ、現代の經濟組織は、一に我慾の満足を目的として、何事にせよ個人を認めて居るけれど種族を認めて居ねえやねえか。個人の利益は何處々々までも尊重して居るけれど、種族の利益などは塵芥のやうに捨て了つて居るぢやねえか。強盜の様な現代の經濟主義は、現在に爲に未來を犠牲にして偶子孫百年の謀を爲さうとする者があれば、狂者

にして他が相手にしてくれねえぢやねえか。薄志弱行とは云へ、然う云へば實に然うなんだ。誰がコンナ不合理な現代の分配状態の下で氣紛れに子孫の謀を爲さうと思ふ者があるか。何！人道と云ふ者があること、嘘を云へ。人道は俺等が餓ゑた時に麵麩を與へてくれたか。職業がねえ時に職業を與へてくれたか子供や後家を助けてひもじい目に逢はしてくれなかつたか。元來人道てえものが果して此世の中にあるか如何かは知んねえが、人道は何時其義務を盡して居なかつた。將來に於ても盡してくれ相にも思へねえ。現代人が唯自己の利益を思ふに汲々として、他を顧みるの邊なく、惚れた惚れぬを血の氣の沙汰だと云ひけなし、嫁入簞取を以て貨財の割前を増加する一手段と心得て居るのは、成程無理もねえ事かも知んねえ。

▲選擇された親和力

多數の婚姻は原始時代でも矢張俺等が文明國に於けると同様の習慣で行はれ

て居たに相違ねえ。或種族では、野郎が其婚姻の儀式を了つて、先づ第一に邂逅した女を嫁にしたり、又或種族では花嫁が途中初めて出會した隣族の女を強奪したりする慣習があつたに相違ねえ。斯る場合に於つては種族の保存は固より偶然の出來事か、又は利己主義の結果に外ならねえのだ。併し夫でも當時の青年の活氣は之が爲に寸毫も妨げられねえで、十分の發達を爲し遂げた。何故かと云ふと、未開の蠻人間では戀愛を基礎としねえ婚姻でも人類學上、現代に於けるやうに其害が大ならぬからだ。個々の原人は物質的にも精神的にも互に違つて居る點は極稀で、種族の模型は男の上にも女の上にも一樣に現はれて居る。だから個人の體型と云ふものは少しもなく、唯胚として存するに過ぎねえ。彼等は皆な同じ鑄型に籍つて居るのだ、複雑なる個處に至つても互に相酷似し居て發育の目的から云へば皆な同一の價値を有して居るのだ。コンナ時代では、自然淘汰は婚姻に關する必須の前提條件ではなくて、其動機が如何で



あらうか。結果は皆な同一だ。生殖は異性の借老を願ふ一般の願から生じても、個々の場合に於ては決して起ることがねえ。換言すれば、男とか女とか云ふ全性が他の全性、他の全異性を牽引のみで、野郎が其配偶者となるも、女が其慰藉者となるも、男女兩性にありては何の關する所もねえのだ。

けれども、現代に在つては然うは往かねえ。現代では個人の性質は殆ど無限に違つて居る。個々の模型も劃然として違つて居る。だから性慾の衝動も亦劃然として分たれて居る。随つて社會が子の出生を期し、許して以て男女間に於ける唯一の關係として居る婚姻が戀愛の結果でなければならぬとは明かだ。婚姻は種族生活の一大整調機だ。而して生殖の衝動は盲目だ。だから之によつて種の永存改善と云ふ自然の目的地に達しやうとするには、是非とも戀愛と云ふ杖があつて之を導かねばならぬ筈だ。若し此杖がなくて、男女が唯謂なく密著き、而して其密著が唯外部の利益によつて決せられ、其間に相互の牽引と

云ふものがなければ、コンナ杜撰極まる夫婦の子が變型するのは當前だ。戀愛のねえ夫婦の間に出來た子は、常に此運命に遭遇するのだ。正妻の子には碌な奴がなくて、妾の子に豪い奴があるのは、實に其間の消息を示して居るのだ。豪い子を産むの前提は戀愛に伴ふ婚姻で戀愛とはゲーテが所謂『選擇された親和力』のことだ。此言語は能く科學上の用語を以て、自然界に於ける大過程と人間界に於ける戀愛の過程との關係を最も的確に説明したものだ。選擇された親和力のねえ現代人の子の現代人に一の英雄豪傑がなくて、平々凡々、常に團栗の脊競べをして猜忌、嫉妬、邪智、姦佞、有らゆる惡徳の體現を示して居るのは御尤もの話だ。

▲直接の犠牲は女

現代人の婚姻は此の如くにして人道の急激なる墮落を促して居るが、さて之が爲に直接の犠牲に供せられるものは誰かと云へば女だ。女こそ實に可い迷惑

だ。野郎は之が爲に苦しむと云つたつて知れたものだ。家族を養ふ能力や勇氣がねえと悟れば、一生嬢を貰はねえで暮らしたつて、本能を満足する途はいくらもある。未婚者とは獨身者の謂ぢやねえ。内縁の女房とか怪しい女を置いときさへすれば、夫で十分に本能を満足することが出来るし、また其外に藝者を買ふ途もあるし、女郎を買ふ途もあると云ふものだ。此點に於ては實に自由なものだ。人の女房ならば社會が決して許しはしねえ、愉快を求むるの自由を野郎は享有して居るのだ。而してちつとやそこいら放蕩をしたつて、紳士の交際社會から除名せられると云ふ氣遣もねえから安心だ。女に成と、然うは往かねえ。現代の婦人は婚姻を以て唯一の生活となし、唯一の運命として居る。身體上の慾望は大小となく、皆婚姻に因てのみ満足できる者だと考へて居る。其婚姻が野郎の經濟的の都合で滅茶々にされるのだから堪つた者ぢやねえ。

第一が金持の跡取娘だ。此奴は實に蟲のつき易い代物で、女房の財産の生活

の利子で飯を喰つて往かうと云ふ野郎は、其處等にうよくして居るのだ。此奴等は金持の娘と見ると、ペココ御辭儀をしたり、しなだれかゝつたりして甘いく蜜のやうな事を云つて、頻と娘を迷はすの手段を講ずる。世間見ずの娘だもの引かゝるのは當然だ。『其方やソナに思ふてか』なんかと云ふ捨料白で屏風の廻はされるが最後、これや十露盤玉に弾かれたわいと、怒つたところが、怨んだところが最う追付かねえ。額に人の女房と云ふ焼印をして居る以上は、なまじつか虚偽の約束を棄て、自然の命令に従つたりすると、夫こそ大變だ。社會は忽ち之を姦通罪として暗い處に押籠めて了ふのだ。何と氣の毒なものでねえか。

夫から貧乏人の娘だ。此奴になると野郎の性慾の爲め玩弄にせられた上、何時でも荷厄介にせられて、少しでも氣に喰はねえことがあると直ぐ出て行けがしに取扱はれる。夫が殘念と云ふんで嫁に往かねえで居れば、父様や母様が生

きて居る間は可いが、兄弟の世となり、姉妹の世となると、家長から厄介視せられること嬢なんどの比ではねえ。一層の事夫よりはと云ふんで、腕に覺へのあるを手頼に、何處かへ雇はれて月給を貰ふと假定しねえ。併し生存競争の劇しい世の中では、女がいくら働らいたつて、野郎に勝てる道理がねえ。普通の場合ならば兎に角だが、女が愈々野郎に向つて宣戦を布告する一條になると、見る間に野郎の爲にぶち殺されて了ふのは見て来たやうなものだ、其上人間は何時若いものぢやねえ。老婆になると猫だつて相手にしてはくれねえ。何？金さへあれば心配には及ばねえ。冗談を云へ、此金と云ふ奴が一體女に管理できると思ふかい。金と女には昔から蟲がつき易いものと定つて居る。野郎でも金を持つて居れば兎角蟲がつき易い。女の金持！蟲のつき易いものがダブルことになるのだ。蟲の爲に喰ひ盡されるのは、之も見て来たやうなものだ。安田善次郎のやうな消極的の大英雄主義を取らなければ、女の持つて居る財産

は瞬く間に人手に渡つて了う。……と思ふと、人間は女には生れたくねえものだ。其處で女は如何しても婚姻をせねばならねえことゝなる。而して婚姻をすれば要らぬものゝやうは取扱はれると云ふ段取だ。女こそ可い面の皮だ。

▲婦人の参政権争ひ

昔時和田義盛が巴御前と馬上で引組んだとき、巴の力や勝りけん、既の事で義盛がしてやられる所であつたが、義盛と云ふ野郎もずるい奴だ。其利那に氣轉の早業を弄したゞけで、あら恥しやと云つて巴が馬上から頭轉堂と眞逆倒に大地に落つたつたと云を話だ。これは冗談だが、女には何處かに弱い所があると云ふ事を諷したものだ。板額、巴の徒にして既に然りとすれば、爾餘の姫御前は推して知るべしだ。馬鹿げた婦人解放論に對して眞面目に反駁するのは大人氣ねえと思ふから、まあこんな事でも云つて置くのだ。一體ガラントリーと云ふ奴は、閑暇な時の考へ物で、急しい時にはソんな生やさしいことがして居

られるものか、考へても見ねえ、若し日常の麵麩を得るに際してだ、女が野郎と角逐するの境遇に立てば、缺乏と餓とが忽ちにして野郎の愛情や謙遜の態度を破壊するのは必定だ。女が野郎に尊敬せられるのは、従順で能く野郎の心を慰め、且つ野郎の實質上の主權を認めて之に服従するからだ。若し女にして此氣がなくなり、野郎の矢面に立つことゝなれば、一敗地に塗れるのは明かな事だ。

處が女は従順にして野郎に従へと云ふ一方では、現代人の婚姻は女を滅茶滅茶に取扱つて、經濟の直接犠牲として居る、其上野郎は其意見を立法に及ぼして勝手な事をして居やがる。だから女の位置を高めるには是非とも之に參政權をも與へなければならぬと云ふのが、一部無鐵砲な、女の尻に敷かれて居る野郎が時として唱ふる議論だ。其處で女も可い氣になつて西洋あたりでは姫御前のあられもねえ示威運動を試みるものが續々と現はれて來た。一體英國婦人

の參政權を云々とするのは今に始まつた事ぢやねえ。アダム、スミス以來の事なんだ。スミスと云ふ野郎も鼻の下の長え奴だつたと見える、夫が近頃愈々女の方の運動となつて現はれたのだ。英國の女共が選舉權を強請して議會に臨み、惡聲を放つて議事の進行を妨害し、其結果退場を命せられたのは、確かバルフォル内閣時代が嚆矢であつたと思ふ。處が彼等は尙之に慊らねえで、相率ひてバルフォルの官邸に押寄せ、金切聲を振立て、參政權の享有を絶叫し、到底始末に終へねえので、警官の手を煩はして解散を命じた。バンナーマンの内閣時代にもコンナ滑稽な芝居が度々演ぜられ、今度の内閣では愈々倫敦通信に見えたやうな大仕掛の示威運動となつたのだ。

保守主義を國粹のやうに心得て居る英國で何せコンナ急劇な女共の示威運動が始まつたのかと云ふに、夫はアダム、スミス一派の鼻下長連の甘やかしが一部其原因を爲して居るのは明かだ。今一つは英國の野郎が表面ではいかに女

を尊敬して居るやうに見せかけて置いてから、裏面に廻はつて言語に絶する侮辱を被らして居るからだと解せば、解せられぬこともねえ。一體西洋人の夫婦關係ほど變な奴はねえ。戸外に居るときは、手を引き合つて歩いたり、人目の關も憚らねえで、甜めたりシヤブツたりして、如何にも仲の善い、水も漏らさねえやうに見せかけて居るが、家へ歸れば室を別にして全然仲の悪い他人同志のやうにして居る。表面では社會の制裁が強くて悪い事は出来ねえが、裏面へ廻はると夫婦勝手に思ふ存分悪いことが出来るやうに仕組んであるから堪らねえ、此所で野郎晝間の屈服を夜になつて取返へす氣で、散々女の口からは人に話せねえやうな惡戯をやるに相違ねえ、女の怒るのも尤もだ。

▲獨逸婦人の覺醒

其處になると獨逸の女は穩當なものだチユートン人は由來非常に理屈っぽい人種の様であるが、野郎が理屈っぽいだけ夫だけ女は從順だ、獨逸の女の運

動はエルレン、キーの主義で女の自由は固より之を尊重して居るが、其自由たるや故スザン、アンソニー嬢の唱道に係る突飛的な者ではなくて、正義に基ける法律を承認して之に服従するの自由だ、立法に參與して社會の秩序を正すと云ふ意味の自由ではねえ、曾てスザン、アンソニー嬢が獨逸皇后に謁見して皇帝も遠からずして獨逸婦人に選舉權を御與へになるとを望むと申上げると、皇后は破顔一笑されて何にも云はれなかつたと云ふ話だ、だから獨逸の女共も皇后の意を體して選舉權の騒ぎなどは夢にも思つて居ねえ、唯近頃ムツテル、シユツツと云ふ會を組織して、政治上稍活潑なる運動を開始したと云ふ話だが此奴は近頃同國に於て庶子や私生兒の數が増加するの傾きがあるのに、法律が此等の庶子や私生兒や其母を十分に保護して經濟上獨立の地位を與へねえから之を怒つた運動で獨逸の女共は依然として男子の本領と女子の本領とを區別し互に相侵さるやうにと勤めて居る、實に感心な次第だ。シヨールペンハウエル

を出し、ニイツエを出し、オット、ワイニンゲルを出し、メービウスを出せる  
 獨逸に在つて、少しも反抗の色を示さねえで、おとなしく家庭内の帝王を以て  
 自ら任じて居る獨逸の女共は、國が歐羅巴であるだけ、夫だけ俺等の感心を値  
 すると云ふものだ、日本の女共も是非此例に倣つて欲しい。  
 第一婦人の參政權争ひが成功して、女共が續々選舉權や被選舉を有して議員  
 になつたと假定してもだ、ソナ運動に參與はる奴だもの、女の特性は全然失  
 つて居るに相違ねえ、唯申譯だけに女の形を具へて居ると云ふのみで、心は全  
 くの野郎だ、變成男子だ、ソナ女に、女の利害關係などが判らう筈がねえ、  
 所謂フエア、セックスの利害を代表するには餘りに亂暴過ぎて、反つて女共の  
 利益を害するばかりだ、例之ば男の姦通罪などを非常に荒立て、嚴しい刑罰を  
 課するやうにしてもだ、可愛い亭主が其爲に直ぐ牢にぶち込まれ、牢から出て  
 來ても女に對する敵意から女房を見むきもしねえやうになれば、辛が利き過ぎ

ると云ふものだ、且つ夫れ國家と家庭とは大小ばかりの差異ではねえ、之を支  
 配する法則が全然違つて居る、家庭内にあつても、最も弱いものに最も大なる  
 保護を與ふるのが原則だ、例之ば赤兒は家庭が擧げて以て勞はり慈しんで保護  
 を與へねばならぬ、けれども、國家を支配する法則では然うは往かねえ、貧乏  
 人や乞食や労働者ばかりを保護して居る譯には行かねえ、立國の大本から見  
 時としては資本家や富豪を保護して、工業の隆盛を期し、貿易の進歩を圖らね  
 ばならぬことがある、女は由來強い者に従つても、強い者を引立てる勇氣がね  
 え、姫御前のあられもない戀路なりと云ふ其あられもねえのが、女に千貫の  
 價値のある所だが、柄にもねえあられもねえ運動は止して貰ひてえ。

▲婚姻制限論 (上)

現代人の婚姻は特に上流社會に於て不倫の甚だしいものがあるので、其結  
 果上流社會は年々變型して、終に滅亡して居るのが現今の狀態だ、然るに現

代の経済的組織が貧富の懸隔をして彌が上に甚だしからしむるの結果、下流社會は殆んど原始的、野蠻的の状態に陥つて居る、随つて彼等も前にも述べて置いた通り、個人の體型と精神とが互に酷似して居るのでよしや不倫の婚姻を敢てしてもだ、青年の活氣は之が爲に寸毫も減退しねえから、年々繁殖する一方だ。随つて其間には、乞食も出れば泥棒も出、宿無者も出れば、大酒家も出ると云ふ始末だ、而して根が眼に一丁字のねえ無智蒙昧の徒だから陰に陽に上流社會の者を威嚇して社會の基礎を危くするの虞があるやうになつた、其處でフランス、ガルトンのユーゼニックスも出、メンデルのメンデリズムも生ずることになつたのだ、ユーゼニックスもメンデリズムも一口に云へば、所謂種族改善學で、一種の婚姻制限法に依つて、種類の自殺やデカダンを救濟せようとする人種學上の主義なのだ。

量を尊んで質を忘れた人口論は最早時代後だ。人口の多寡を以て國の強弱

を計らう等無謀な豫算を立てるものは、現代には一人もねえ、而して一方にはかのマルサス來來、人口は鼠算によつて年々増殖するの事實が證明せられて、之に伴ふべき筈の生活の資料が全くこれに伴つて居ねえとすると、こゝに一種の悲觀説が起るのは無理もねえ事だ、物價は人口の増殖に伴ふて年々騰貴の一方だ、而して現代の經濟組織は益々富の集中に加擔をして居るので、富は益々富、貧は益々貧と云ふのが近世を通ずる社會の一大現象となつた、特に都會の土地の如きは女郎の腹のやうなもので、何でも積載力さへあれば益々騰貴し、土地所有者は居ながらにして、巨萬の富を積んで居る、之は一に人口増殖の御蔭だ、此際遺産相續税とか、財産相續税とか、僅少ばかりの財産上の制限をしたつて、貧富の懸隔は益々劇しくなるばかりで何の役にも立たねえ、且つ夫れ帝國主義もだ、今では既う徴が生へて居る、随つて各國の殖民政策にも最早や見るべきものがねえ、各國は擧げて殖民政策に手を焼いて居る。移民問題も

其通りで、移民と本國人との間に生存競争が始まれば、本國人は自己の法律を以てこれを制限するばかりだ、米國の移民問題が其適例だ、さすれば差當り人口が増殖して而して其氾濫の勢ひを外に漏らしてやる事が出来なければ即ち内國の秩序問題となつて、社會主義とか無政府主義とか恐ろしいやうなものが内國に起つて来る……と云ふことになる。夫こそ一大問題だ、マルサスの主義が新マルサス主義と改名して家族制限法となり、二子制度となつた所が追付かねえ、此方法や制度を利用するものは例の上流社會だけだ、例の我慾的利己的經濟的の不倫なる婚姻をやり居る上流社會、變型仲間の男女ばかりだ、貧乏人になると、之より以下に貧乏人になる氣遣がねえので婚姻もすれば、私通もする。而してドシ／＼と鼠が子を生む様に繁殖する、新マルサス主義の唱道者が其主義を特に貧乏人仲間に普及させる積りで極めて廉價の費用を以て雑誌を彼等の仲間に配布して居るに拘らず、自暴自棄の民は救ふべからずと嘆息して

居るのは、其間の消息を十分に漏らして居るのだ。

▲婚姻制限論 (下)

人口増殖に關しては、積極策を以てしても駄目だし、消極策を以てしても當分は駄目だとすれば、生理的及び心理的に未來のゼネレーションの種族的性質を左右すべき社會力を研究しやうとするユーゼニツクスなどの起るのは事物の順序と云つて可い。而して此ユーゼニツクスが現代の列強諸國に於ける種族自殺や衰弱を救濟する一の手段として、婚姻に關する自由の制限に想到したのは無理もねえ事つた。人間はハックスレーの所謂特別創造ではねえ、馬も犬も猫も人間ももとは兄弟ぢやねえか、此考へから動物虐待禁止と云ふ政策も編み出されるのだ。婚姻に關して人間の自由を制限して、犬や猫に笑はれるのが口惜しければ、經濟的の婚姻などをやらぬが可いちやねえか。

婚姻制限！と斯う唐突に云へば、如何にも堪へ難い侮辱のやうに思はれるが



國家社會の法律や習慣は既に之を採用して居るぢやねえか。國家や社會は現に單婚を強行し、同族婚姻を排し、他族婚姻を奨勵し、親等の制限婚を命じて居るではねえか。爛熟極まる現代人の婚姻に際して、先づ其生理的、心理的の試験を舉行して而して後ちこれを許可したつて決して差支はねえ。現に正當の婚姻になると、當人の身持や、心がけや、腕前や、更に進んでは先祖の疾病や身持を吟味して其配偶を選んで居るぢやねえか。婚姻の制限法は實に此方法を學理的に説明せんとするにあるのだ。侮辱でも何でもねえ。突飛な説でも何でもねえ。現に此制限法に關する理想は一部文明國の爲に採用せられて居る。千八百九十九年に米國ミシガンの立法府を通過した婚姻制限法が即ち夫だ。同法の第六條には瘋癲、白痴、又は蠱毒、痲病に罹り未だ快癒せざるものは婚姻を爲すことを得ずと規定して居る。其法律は現に實施されて居るのだ。夫から千九百一年に例の有名なるリンドレー法案をインヂアナ、オハヨー、ミンネソタ、

及びウキスコシンの四州に實施せんとしたるが如きも亦其一例だ。尤も此法案は當時首尾よくインヂアナ州の元老院を通過したが、代議院で否決された爲竟に成立するに至らなかつた。

リンドレー法案の内容はザツと話せば斯うなんだ。先づ婚姻に關して一の調査委員會を設ける、委員は五名で、夫々の職業範圍内から選ばれる。其中二名は醫者、一名は法律家、跡二名は既婚の女にして母たるものと云ふ規定だ。委員の義務は婚姻と離婚に關する法律、或條件と事情の下に行はれた婚姻が子孫と社會に及ぼした生理上及び衛生上の影響及び國家の權利權力義務に關して研究調査を爲し之を發表すると共に婚姻によつて現に生じて居る弊害の矯正に付て意見を具してこれを議會に報告すべしと云ふので、國家の官吏は委員の請求に應じて常に其報告に助力すべしとある。以上は國家内部の仕事に過ぎねえが國家は更に進んで、官吏が次に掲ぐる者の婚姻を許可したときは之を罰すと云

ふ法律を制定せねばならぬとリントレーは主張して居る。婚姻を許可せぬ人間の種類は、配偶者の何れか一方が或刑事上の原因又は拘束により正に牢獄に投せられんとする者、貧民又は公共の救助を受けんとする虞ある者。夫から瘋癲肺病患者、梅毒患者、瘋癲の虞あるもの、肺病患者、梅毒患者たるの虞ある者も亦婚姻を許可せられぬ事になつて居る。

▲婦人の保護

コンナ法律が實施せられ、又コンナ法案が議會に提出せられたからつて、流石は突飛は米國氣質など、笑つては可いねえ。米國は新世帝國であるだけ、夫だけ社會や國家に弊害があると見れば、直ぐこれを矯正しようとするから頼母しい。これが拉典人種なんかになると、何事も隠し終せて改良しようと思ふ心は少しもねえ。其結果は自業自得で滅亡するより外はねえのだ。英國は由來あれほどの保守國だ。夫でも近來はメンデリズムが大に勢力を得て來たと云ふぢ

やねえか。何しろ婚姻に關する問題は、種族の消長に關する大問題だから、苟くも經世家を以て任とするものは種々工夫を凝して其改善を計らなければなんねえ。處で以上のユーゼニツクスやメンデリズム又は此主義を體した法律などは主として貧乏人即ち下流社會の間に行はれる婚姻の自由に向つて制限の加へようとするので、現代人の婚姻中特に現代的の特性を帯びて居る婚姻、即ち中流以上の社會に行はれて居る經濟的、虚偽的婚姻を矯正するの手段としては不十分だ。戀愛の問題は法律の屁理屈以外に超然として、陰に陽に有機體の發達を指導して居るのだ。だから此問題は現代人各個の道徳心に懇すべき性質のものだ。

婚姻の前には戀愛がなければならぬ。戀愛のねえ婚姻を敢てする種族や個人は變型して早晚滅亡するものだとすれば、婚姻に制限を附するよりも、戀愛を自由にするのか當然の問題だ、而して此問題は現代の經濟偏重主義を脱して、

人種の改善を期する主義に由て解決しなければなんねえことは問はずして明かだ。然らざるには先づ生理上の慾望に對して十分に女共を保護して養育の資料を之に給してやるのが肝要だ。社會は女を保護し、支持するの義務を有して居る。種族の生活上、野郎の職責は日常の麵麩を得て、現在のゼネレーションを保持し保護するにある。而して女共の職責は來るべきゼネレーションを保持し、保護し、又自然淘汰によつて種族を改善し、野郎共の競争を鼓吹し、自ら其賞品となり、最も強い競争者に對して最も貴い賞品を與へるのにあるだから娘として子女は社會より十分な兒童教育を受くるのは勿論、年を取つても必要があれば、兩親の家又は別家で十分な扶養を受くる權利がなくはならぬ。文明なる此世界で、若し衣食の急を告ぐる女（其老幼と美醜を問はず）があるならば、夫は洪水の爲め衣食の急を告ぐる罹災民があるよりも一層社會の恥辱であるのだ。洪水の爲めに衣食の急を告ぐる罹災民は一部のものだ。一時的の

ものだ。併し將來のゼネレーションを産み出す女共が衣食の急を告げて居るは現代の社會を通ずる一般的东西のもので且つ永久的なものだ。社會の人間其が能く此點に注意して女共を現代の桎梏から解放したならば、餓は婚姻の仲買たらず随つて野郎は金で以て其欲する所の女を買ふことが出來ねえやうになるから女共は茲に即ち純粹なる愛情を發揮して配偶者を選択することが出來るに相違ぬえ。而して配偶者を得られねえ萬年新造の様なもの、放埒な生活をして婚姻の無形的制限に苦しめられねえ獨身者の老爺と共に、次第に跡を此世に絶つて、淫賣のやうな穢らはしい事は唯爛熟な空気を呼吸し、其衝動の極めて放逸な、種族の保存には寸毫の利益もねえ少數の墮落者によりてのみ行はれるやうになるのは請合た。此の如くにして經濟上の利害は最早や婚姻の條件とならず、女共は其愛を競ふに其個人性を以てして、社會の地位や財産を以てせざるやうになれば、社會は初めて萬々歳を唱へても可い。

### ▲婚姻者への注意

▲婚姻に由りて幸福を得べき一大技術、一大學問は望外の幸福を求めざることである。故に我等は數週日にして其兵糧を盡さざるべく、巢をつくらねばならぬ。當初よりしてブレキをかけよ。然らざれば、汽車は急行して、衝突せん。

▲汝等の愛情を節約し、汝等の情慾を制して出来ない約束をするな、汝等は折休まなければ、常に働くことは出来ぬ。之と同様に靜に歩んで折々休まなければ愛情は續かぬものである。大に勉強するには休日が必要である。

▲婚姻の幸福は、計算なく、又夫妻雙棲に於て大外交術を揮うにあらずんば、決して永續するものではない。餘りに絶えず妻の戀人たることを避けよ。一旦緩急あらば、妻は往々にして夫が過去の心づくしを忘れる。汝等の不斷の注意汝等の職業又は事務に對する汝等の勤勉、妻の將來及び小供の將來に對する豫

想、總て汝等のものに對しては、戀の覺めたる折には妻は何とも思はぬものである。

▲第三者をして決した私事に干渉せしむるな。何人をも信頼して、汝等の苦勞と不平を夫に語るな。『妾が貴女だつたら夫に彼ら云ふこともさせませぬ、此云ふこともさせませぬ』と注告する女に心を許すな。第一に其女は汝等の位地には居ぬ。第二は其女は汝等の情をも知らず、夫の情をも知らぬから、汝等の位地に立つことは出来ぬ。

▲婚姻中に起る數多の些々たる難事に對しては、汝等は最良の裁判官である。唯一の裁判官である。幸福であつても、不幸であつても、婚姻中の祕密は固守するに限る。汝等の幸福と不幸とは、決して汝等の朋友の數を増すものではない。

▲獻身的の生活を營め、獻身は我慾中の最も精選せられた、而して最も高尚な

る形である。獻身は自らの估券を増す。獻身は愛する人の情を鎖で繋ぐものである。獻身は犠牲でなくて、後光である。

▲余をして女たらしめば、余は其夫と相對して手を握る折と同様、病床にある夫の笑顔を見ることがを以て無上の愉快とする。健康の折には、男は妻の保護者であることを感せんと欲し、病床に在つては其愛する女の腕ほど、男に力を與ふるものはない。

▲漫言の一

▲唯美の愛の爲めに美人を娶るのは、冬になつて寒暖計が零度五十度以下に降る折に着る着物を用意しないで、百度の暑さの國に住まうとすると一般である。

▲男女の關係に於て、女が特に男の心を牽くものは、其美である。故に男の愛は女の信用的、信賴的であるよりも。一層情慾的、嫉妬的である。原則として夫の情は次第に減少し、妻の情は次第に増加す。男は其妻より初戀を強奪せん

とし、女は其夫より終戀を強奪せんとする。此幸福の此等異りたる要素、危険の此等異りたる原因を利用して成功するには、賢明なる外交策を持して婚姻に對せねばならぬ。併しかゝる成功は少ない。

▲借老同穴の契を時々忘れ得る夫妻は、之を忘れぬ夫妻よりも幸福に暮らすことが出来る。之を忘れ得るか、忘れ得ざるかは自らが仕組むべき小演劇である。

▲婚姻の幸福は、單に愛を土臺として居る時よりも、苦樂を共にする友情を土臺とする時に於て、鞏固である。

▲愛に在つては、今日の幸福は當にはならぬ。當になるものは、之を純化し、犠牲化する明白である。此明白を考へて、幸福を感じるものは、世界に果して幾干かある。

▲常に何物かを貯藏するの術を知る夫は婚姻に伴ふ幸福の大問題を解決する。

▲戀の神は婚姻と稱する包圍地に男女を導き入れ、跡は野となれ山となれで、

直ぐ姿を隠して了う。晩年に其知己となつて、永久に其足を止めることの出来ないのが悲しい。

▲己を愛する男よりも、己の愛する男に嫁した方が、婚姻は幸福である。

▲女が其客を遇する如く、夫を遇するならば、婚姻は實に立派な制度であらう。

▲女は如何にして漸次に老い、又其涙が男に愛想をつかせ、其怒が容貌を醜くすることにつき、日夜憂慮せんことを要す。

▲婚姻に伴ふ幸福に對する最大危険の一は、愛情の缺乏でなくて、愛情が有り過ぎることである。特に其當初にて有り過ぎることである。愛情は他の病氣よりも不消化の爲めに天死することが多い。夫にも妻にも、腹一杯に愛情を拂舞うな。婚姻の當年に、手元の一萬圓を悉く支出して、毎年毎年一千圓、二千圓と所得を減するやうな愚を演ずるな、愛情は收入と同様、漸次に、靜に増加することとを要す。之には唯克己あるのみ。

### 相撲と競技

(一)

本社の角瓶評話子は夏場所九日目の角瓶評話で

力士が武士に准せられて、帯刀御免の取扱を受けしは當時角瓶道の意氣武士の意氣に譲らざりしが爲にして、今日の如く客に媚び藝者に押れ、大道藝人と大差なき墮落を示すに至りては力士の名目甚だ副はず、これより改めて力師となすべし、力師の師は奇術師の師なり、輕業師の師なり、これ今日の相撲に恰好の名目なり

と罵つた。至極尤もな罵り方だ。併し此罵り方は畢竟我が好角家が従來角瓶を買被つて居た故で、今更悔やんだつて詮方がねえ。試みに思へだ。多寡で知れたお角瓶の事ぢやねえか。藝人共の勝負事に然ら肩を入れて堪まるもんか。社

會は進歩して居るぞ。野見宿禰、當麻蹴速時代のものを今更引張り出して、樂まうなんて云ふのが、抑の間違だ。角瓶自身は此の後如何に進化してもだ、昔の軍談に所謂「遠き者は音にも聞けよ、近くは寄つて目にも見よ我こえは△△家譜代の臣、何とか、何とか、何とか」と名乗を揚げて夫から悠々と身繕をしながら渡り合ふと云ふ一騎打の戦争でつこの外に出ねえ。ソナ手ぬるい戦争でつこが今日の文明世界にあつて堪るもんかい。戦争は今日までに非常に進化して来た普佛戦争以来の戦争の進化は常に大したものだ。日清戦争、日露戦争以来の進化に至つては特に著るしいものである。勝負事も戦争のやうに斯う進化してこそ實に面白い。處が角瓶になると一向にソナ進化の跡がねえ。四十八手は依然として四十八手だ。其間に統一もなければ、分化もねえ。文明國の人間はソナ暢氣なものを見て居る暇があつて堪まるかい。何によらず、一體勝負事と云ふものは之によつて、公明正大の氣を養ひ、兼

ねて又協同、犠牲の念を養ひ得るから尊くて而して面白いのだ。相撲は遺方一つでは或は之によつて公明正大の念を養ひ得られるかも知んねえが、協同、犠牲の念を養ふの點に至つては、カラキシ駄目だ。夫は庭球や野球のやうに一致協同して敵に當ると云ふ競技ではなくて、所謂一騎打の舊式な競技だからだ。文明國に行はれる競技でなくて當麻蹴速時代の競技だからだ。……論じ來るとだ、然らば競技の精神とは如何なるものかと云ふ問題が起つて來るので、俺等は今姑く英國紳士訓練法の一なる英國競技の精神について少しく講釋をせねばなるまい。英國の競技中で最も注意すべきものは前にも云つた通り公明正大なることを要すと云ふにある。英國では此精神が實際生活にまで漲つて居る。若し公共生活を營む者にし

相撲と競技

れる。競技を審判するアンパイアに在ても亦然りだ。其審判は人をして誤判なりと思はしめるやうな曖昧な者であつてはならぬ。随つて英國の青年は平生から其審判官の公明なる態度を信じて、一言を異議をも挿まぬ慣習を養成して居る。此の如き慣習の養成は、他日青年が學校を出で、愈社會の人となつたとき、特に下院議員となつた折に、異議なく議長の言に服するの準備となることが多いと云ふ。だから英國では、苟くも公人となつて如何に其事務を處理すべきかを知らんと欲せば、先づ大中學の青年と一緒に競技界の人となつて此精神を修養することが必要だとしてある。競技もコンナ風に直に人生に應用せられ、又應用せらるべくして初めて文明國の競技と云ふべきだ。物言ひの澤山ある相撲などで、夢にもコンナ精神が修養出来るもんかい。

(二)

何だと、相撲が元氣を鼓舞すると。嘘を云へ、此の頃のやうな八百長ばかり

の角瓶が元氣を鼓舞するなんてえことがあるもんか。病氣をかこつげに休場ばかりして居る相撲が元氣を鼓舞するッ、笑はせあがるな。一體角瓶は前にも云つて通り、多寡が知れた一騎打の戦争ごつちやねえか。よしんば之によつて元氣が鼓舞せられるにもせよだ、其元氣は一騎打の元氣に過ねえ。一騎打の元氣は、今日のやうな文明な世界の中に在つては害こそあれ益はねえ。此種の元氣は社會の秩序をこそ紊亂せ、其進歩には少しも貢獻する所がねえ。個人の勇氣元氣などはずつと昔の元始時代の事さ。相倚り相助けて以て共同生活を營んで行く今日の世の中では、ソナナつまらねえ元氣などはなくて、協同、犠牲の念が第一の必要だ。勇氣とか、元氣とかを基にして居る角瓶にコンナ文明的の道德が含まれて居ねえのは無理もねえ事つた。

處が一體競技てえものは右の協同、犠牲の念を養成し得るものでなくては、眞正の競技とは云はれねえ。自分達よりも勝れて熟練な競技者が居れば、自分



達は寧ろ退いても其位地を優者に譲るのが競技の理想だ。此点から見れば角瓶には若年寄が多くなればなるほど、夫ほど理想に近い競技が見られる譯だ。張出大關が幾人もあるやうでは力士の間に角瓶道發達の爲に自己を犠牲にするの念がねえと云つても答辯が出来ぬ、コンナ事で角瓶道の繁盛を祈るは桃の中に石を求めぬやうなものだ。若し夫れ協同の念に至つては、如上角瓶は所謂一騎打の競争であるから、協同の念を起さうとしたつて起せやう筈がねえ。此頃になつて優勝旗の授受など云ふことを考へ出したので、幾分か協同と云ふ念も各力士の頭の中に浮かぶやうになつたかも知れぬが、其協同は一時に働く協同ではなくて、時を異にした單獨行爲であるから、東西の各力士が互に呼吸を呑み込んでの協同ではねえ。所謂加算的の協同で、乗算的の協同ではねえ。コンナ協同は今日の世界に必要がねえ。此点に至つては角瓶の野球や庭球に及ばざること遠しと云ふべしだ。野球や庭球も米國のやうに商賣にするものが出て

來ては閉口だが、さもなくば、一日も早くこれを以て角瓶に代へたいものだ。文明の世の眞中に立つて活動せんとするものが、當麻蹴速時代の競技などに現を抜して居て堪るもんか。

凡そ一國の競技は其國の文野を示すの標準である。角瓶のやうな野蠻時代の遺物に現を抜かすやうな國民が、平素の共同生活に於て、人の虚に乗じて一騎がけの功名に誇らんとするのは敢て不思議でねえ。日本人は昔から如何な事業をして協同の念に乏しい。犠牲の念などは藥にしたくてもねえ。戦争になれば、夫こそ協同もするし、犠牲となることも辭さねえが、日常の平和事業に在つては、互に相欺き相陥れ、自分一人が可い子にならうとするの傾きがある。何と概かはしい次第ではねえか。戦争は社會の異常の状態で平和は社會の普通の状態だ。異常の折の道德を以て普通の折の人民の行爲を律せんとするのは、見當違も甚だしい、べらんめえ無學なりと雖も、豈に漫々然として相撲を

罵ののしるものならんやだ。平時へいじに於おける國民道徳養成こくみんだうとくやうせいの點てんから見みて角瓶かくびんの如ごとき野蠻やばんな競技きぎは一日いちにちも早く社會しやうかいより驅逐くしやくしたいと思おもふのだ。角瓶かくびんは堂々どうどうたる國技館こくぎくわんなとで取とらしめるものではねえ、矢張り回向院えかういんの小屋こやがけで澤山たくさんだ。分不相應ぶんふさうおうなことをすると何なにによらず物は衰微すいびするものだ。如何どうだい、今度こんどの場所ばしよのさまつたら。

## 犯人状者

(一)

何なに！小名木川首無事件せなぎがわくびなしじけんの犯人はんじんが護送ごそうされるのを見みようつて、蟻あみの如ごとくつとひ集あつまつた群集ぐんしふの中で、果はては官憲くわんけんの命令めいれいに抵抗ていかうして拘引かういんされたものがあるか？夫それだから此節このせつの人間にんげんは頭あたまが陳ちんくて可いけねえと云いふのだ。何多寡なただくわが知しれた舊式きやうしきの犯はん罪ざいぢやねえか。久ひさしく犯人はんじんが發見めつからなかつたつて、相手あひての被害者ひがいしやてえのは、賣ばい女め上ありの淫奔者いたづらものぢやねえか。ソナ淫奔者いたづらものが千人萬人殺ころされたつて、社會しやうかいの益えきにこそなれ損そんにならう筈はずがねえ。珍めづらしいこともなければ恐おそろしいともねえ。成程なるほど第一だいいちの鈴すずが森事件もりじけんがあつて第二だいにの小名木川事件せなぎがわしけんがあり、第一だいいちの二本榎事件ほんにのきけんがあつて、第二だいにの王子事件わうじけんがあつたんだから、久ひさしく其犯人そのはんじんが知しれなければ、模倣者もほうしやが續々ぞくぞくと現あられて來くるから、夫それは恐おそろしいには違ちがねえ。だけど、考かんへて見み

ねえ。此種の舊式の犯罪では、被害者は一人か若くは数人で、其数には當初つから限りがある。下練馬の酒狂者だつて百人とは斬らなかつたぢやねえか。斬つたと云つたつて多寡が知れた八人だ。夫に舊式の犯罪では其被害者は當初から知れて居る。平生若くは或瞬間に加害者の怨みか怒かを買ひ、又は其犯罪行為の邪魔をせんとしたものに限つて居るから、其被害の程度は知れたものだ。夫から其犯罪も大抵は花々しいから、ドンナ間拔だつて直に目にも見え、耳にも聞かれるので、平生から恐れてこれを豫防することが出来る。だから舊式の犯罪は花々しくてもさほど恐るゝには當らない。女郎買や藝者買をして居る旦那が家庭を紊亂すると云つたつて知れたものだが、君子然として居る生真面目な旦那が隠密で女中や小間使を引かけたりすると夫こそ大變だ。舊式の犯罪と新式の犯罪との關係はまあ斯う云つたやうなものだ。

第一此節の人間は公然に人を殺したりするやうな氣の利かぬことはしねえ。

舊式の犯罪を犯す奴は大抵間拔か馬鹿か狂者に限つて居る。たとひ其結果が如何なつたところで、間拔や馬鹿や狂者のすることだもの、程が知れてるぢやねえか、心配する程のことにはねえ。處が新式の犯罪となると、然は可けねえ。犯人は八字髻を立派にカイゼル風か何かに繕つて、袴羽織か乃至は燕尾服にシルクハットで、蒸の高えマニラなんか燻かしながら、自動車に砂煙を立て、市中を横行して行く奴さ、然うさ、自動車で思ひ出した。自動車で市中を廻はして居る無神経な奴等は、百人が百人、悉く動もすれば犯罪を犯す状態にある奴等だ。犯罪を犯す状態と云ふよりも犯罪の準備行為をして居ると云つた方が可いかも知れぬ。アハ善くば其前に来る老人といはず子供といはず、大人と云はず誰れでも彼でも轢き殺さうとして居るのだ。これに轢き殺された奴は所謂「ゴットオンスピート」の犠牲で、實に悲惨なものだ。損害賠償どころか、却て『此文明の世の中に往來にまでくして居るから夫で轢き殺されるのだ』と叱りつけら

れて、退き下るだけのことさ。  
 何しろ第二十世紀の文明でえのは大したものだ。其代り其文明に伴ふ罪惡や  
 犯罪も亦大したもので、鐵道會社や、鑛業會社などが條例や規則の不備又は違  
 反で以て毎年々々どれほどの人間を殺して居るか知れねえ。夫から職業が分化  
 的になつて相倚り相信じて行く世の中の趨勢につれて、恐るべき新犯罪が續々  
 と發生して來た。保險會社、銀行、請負會社等の重役が其私腹を肥さんとする  
 が爲に、密々にどれほどの犯罪を犯して居るか知れねえ。一寸踏み込んで調べ  
 たなら日糖事件はそいらに落つて居るぢやねえか。而して此新犯罪の犯  
 人は、前にも云つた通り寸毫も犯人らしい貌付や風をして居ねえし。被害者も  
 亦誰と當初から定まつて居ねえので、其下に來る社會の總ての人間が其害を被  
 る、而かも舊式の犯罪の被害者のやうなやくざの人間でなくて、善良なる市民  
 が其被害者になるのだ。想つても慄然とするぢやねえか。而かも世人の犯罪に

對する輕重の觀念が陳いので、此等の犯人は木戸御免の特權を以て社會の相撲  
 場に入り込み、到る處に見物人の懷中を覗つて居る。ケリミナロイドと云ふの  
 は此種の犯人を云ふのだ、俺等は今これから此犯人狀者の性質を解剖して、懷  
 中物御用心の注意を世人に與へようと思ふのだ。

(二)

クリミナロイドとは、まだ輿論の攻撃の矢面に立つて居ねえ惡行によつて繁  
 昌して居る奴等を總稱して斯う云ふのだ。法律の眼から見れば、此等の惡行は  
 勿論罰すべきものである。併し公衆の眼から見て、果して罰すべきものか罰し  
 なくとも可いものか、夫が判らねえので、行爲者の心的狀態も、自から普通犯  
 人の夫とは違つて居る。立法者の眼から見れば、其惡行は無論犯罪を構成して  
 居るのであるが、世人の道德の標準が舊いので、まんまと刑罰を免れて居るの  
 だ。クリミナロイドは生活の旅行に於ては、白切符の組で赤切符の組ではねえ。

随つて世人からは非常な尊敬を拂はれて居る。其處へ行くと普通の犯人は可愛相なものだ。赤切符を有つて居る悲しさには、其筋の附目が厳しい。刑事巡査が箱に乗つて居て嚴重に目配をして居るので、成功する機会も少ければ、世間に感化を及ぼす力も弱い。クリミノロイドになると、此點は實に安心なものだ。世間からはさまでの反對も受けねえで、樂々として仕事をして居る。其上職業がぼろいのと来て居るので、成るべく人を遠ざけて近寄らせねえ。實業界や政治界の伶俐相な競争者は、三里以外に退去を命じて置いて、而して自分一人で甘い汁を吸ひ、浮世の榮華を擅にして居るのだ。

一言以てこれを云へばだ、クリミノロイドは一種の拘摸である。奴等は物陰に潜んで居て、俺等の理想こそは規はねえが、竊に俺等の懐中物を覗て居やがる。其癖奴等は宿なしの浮浪の徒ではなくて、何々會社の重役とか、何々政黨領袖とか實に立派な肩書を有て居るから癪ぢやねえか。中には本願寺の門徒、

何々聖會の宣教師と云ふ肩書を有つてけつかるものもある。而して此等の徒輩が悠々として群集の間に現れると、正直な市民が皆べこく頭を下げて御辭儀をするから可笑いちやねえか『いや如何もあの人は實に豪えもんだ』とか、何とか云つて皆なが賞めちぎるからやり切れねえ。人を馬鹿にするにも程がある。斯うなると奴等は最早巾着の拘摸ぢやなくて、理想の拘摸だ。赤にも黒にも孰にも染まり易い白絲のやうな青年もの、理想を拘摸つて了つて、人間は矢張りあゝして、悪いことはしても、金を溜めて豪々うな面付をして居るのが伶俐だ、と云ふ考へが青年もの、頭に染み込むことになる。是即ち成功の本義なり矣だつて、呆れて物が云はれねえ。

會社の證券や株券で投機を試むる重役や、貯金者の金を種々な名義で自分に貸付けて居る銀行家や、内密で賃金の割引や無賃を許可して居る鐵道の官吏や、賄路を贈つて教科書の採用を嘆願する本屋だつて、まさか當初から額にこれは

悪人で候との貼札もしては居ねえ。一寸見たところでは流石に悪人面もしては居ねえから、奴等も實は腹からの悪人ぢやあるめえ。唯金が欲しさ、勢力が得たさ、一言にて言へば成功がしたさに、手段も何にも考へる暇がなくなつて了ふのだと思へば、可哀相にもならないことはねえが、併し癪だ。

クリミノロイドは決して自分で手を下して、蠻行を擅にしたり、不徳なことをやらねえが、仲人を介してこれをやらせる。自分で悪いことをするのと、人をして悪いことをさせるのとは、其間に雲泥の差があると云ふことを自覺して居るので、選挙の投票を買ふにも自分で金を出して置きながら、自分では決してこれを買はねえ。而して自分は何喰はぬ顔をして聖人面をして居やがるのだ。實にするい奴だ。自分では贈賄をしねえが、贈賄者を使ふ。自分では嘘を吐かねえが、新聞記者を買収して嘘を吐かせる。自分では血を流さねえが、何卒寛大に見てくれと云つて検閲官に賄賂を贈つて居る。だからクリミノロイド

は犯罪の實行者ではなくて、犯罪で出来上つた結果を買つて居ると同じだ。其間の詳項は皆仲人が可いやうにしてくれるのだ。何と甘え話ぢやねえか。

(三)

見よ、物品の粗製濫造や、貨物の抜取事件や、賃銀の不正割引事件や、泡沫會社の虚偽の發起は今や世界到る處に平氣に行はれて居るぢやねえか。又代議士の腐敗事件や、検査官の收賄事件や、新聞記者の買収事件も日本國內到る處に平氣に行はれて居るぢやねえか。是は皆クリミノロイドの流布した罪惡だ。

クリミノロイドだつて腹からの悪人でねえことは此前にも一寸話して置いたが奴等は其故郷、其家庭、其交際社會にあつては、舊式の道徳から見れば勿論善人であることが多い。鼻には親切で、子供にはやさしくて、朋友に信に、能く借金も拂ひ、公共心にも富んで居ることが多い。貧民院孤兒院、癡兵院などの慈善事業にも巨額の義捐もして居る。併し情ねえことには商業道徳、市民道徳

の一點になるとカラキシ駄目だ。ソナ道徳的觀念は藥にしたくてもねえから恐れ入る。商業上の取引や、市政の發達を期する上に於て、收賄を下等な事とし贈賄を名譽と心得て居るから堪らねえ。收賄も贈賄も市政や商業の腐敗墮落を促すに至つては一つである云ふことに氣が注かねえから困つたものだ。賄賂は贈つても、賄賂を取らぬことを自慢にして居る徒輩は、實にそこのいらにうよくして居るぢやねえか。此點から見れば、收賄者はクリミナルで贈賄者はクリミナロイドだと云ふ區別も出來ぬことあるめえ。

舊式の犯罪の被害は茶碗の縁を廻るやうに直ぐ現れて來るが、新式の犯罪の被害になると、摺鉢の縁を廻つて居るから、然うちよつくら人の眼には入らねえ。クリミナロイドは巧に此關係を利用して、悠々として悪い事をして居る。而して社會から夥しい尊敬を一身に集めて居やがる。物品の粗製濫造や、貨物の拔取、賃銀の不正割引、泡沫會社の虚偽の發起、代議士の腐敗、新聞記者の

買收等より生ずる結果は殺人や詐欺のやうな普通の犯罪結果よりも實に遠い遠い未來に於て現れる。其品物が最終の消費者の手に渡つてからが、其會社が倒れてからが、市民や讀者が其代議士や新聞の記事によつて欺かれたことを悟つた時に於て初めて其被害を知るのが常だ。遠視眼の人間ならば發初からソナ關係にもかゝるめえが、普通の善良なる市民は大抵此關係にかゝつて居る。而して目が覺めるまでほく／＼喜んで居るから可哀相なものだ。だから世の中にクリミナロイドほど罪な奴はねえ。まことに其肉を啖ひ、其血を啜つても足らねえ代物だ。コンナ罪な奴は發見り次第、大地に引倒して額に焼印をしてやると可いのだが、一般人民の道徳思想が高くなつて法律がこれを體現するやうにならなければ、先づ當分は駄目な事だ。

で、今の處はクリミナロイド全盛時代だ。加之ならず、クリミナロイド其者の性質も大に學者の研究に價して居る。何せかと云ふと、奴等は全然これを善

人とすることも出来ず、又悪人とすることも出来ず、云はゞ善悪の境に住んで居ると云ふ人間だから、研究して見たら必と面白いものかも知れねえ。恰好かの常人と狂者の境に住んで居る高等變型者を研究するやうに趣味の津々たるものがあるかも知れねえ。併しロムブロッツもフエリーも、まだ此處までは研究が行き届いて居なかつたと見える。若し夫れ一般世間の人間に至りてはだ、此等のクリミナルロイドが生活の戦場に於て苦もなう凱歌を奏して居るさまを羨むの結果、相率ゐてこれに模るものを生じ、社會は年を逐うて道徳上破産の運命を急いで居る。危く見て居られやしねえ。

(四)

論じ來るとだ、代々の政府當局者は大抵此クリミナルロイドだ。特に對議會の關係に於て然りだ。政治上又は財政上の問題に關して、少しく政府に都合の悪いことがあると、直に議員買収といふ奴をやる當局者本人は苦しい時の惡智慧

で、夫でまんまと議案が議會を通過するのだから甘い話でもあるし、且つは代の仕來上得意満面で祝盃でも舉げて居ようか、夫を悪いことも思はず、政府も中々味をやるわいなと、却つて當局の手腕を譽めるやうでは、國民の將來が思ひやられて慨はしい。斯眼を覺ましねえよ。政治は政府の政治ぢやねえぞ。國民の政治ぢやねえか。政府の一舉手一投足は悉く國民の利害に關係して居るのだ。代々の政府のクリミナルロイドは此手段で以て、終に國民代表の府を腐敗墮落せしめたぢやねえか。議會は政治の檜舞臺だ。此檜舞臺でやる芝居が満天下の人心に影響するのは當然だ。政治と云ふものは斯うした罪惡の競べつこをするものかと思へば誰が議會を神聖視するものか。罰だ、國民が今日のやうなやくざな代議士を有して居るのは、自業自得だ。詮術がねえ。政府のクリミナルロイドは先づ斯うして善良なる我國民に贈賄と云ふものを教へ議會のクリミナルも亦斯うして善良なる新國民に收賄と云ふ事を教へて居る



から、其下に存在して居る地方の自治團體や公共團體の腐敗するのは當然だ。利益を最終の目的として居る營業會社がこれを手本に發見物でもしたやうに盛に贈收賄を行つて善良なる株主や公衆に損害を被らして居るのは無理もない事だ。

贈收賄は法律の禁止して居る所だ。だから其事實が擧りさへすれば、彼等は繩をかけられて牢にぶち込まれる。所が政府の贈收賄になると從來ついで檢擧された事がねえ。自治團體や、公共團體や乃至は營業會社になると、クリミナロイドも然うは安閑として悪いことはして居られねえ。まかり間違ふと繩をかけられることが度々ある。現に繩をかけられた實例は澤山ある。此點から見ると、政府のクリミナロイドほど世の中に樂なクリミナロイドはねえ代り、又此クリミナロイドほど世の中に憎むべきものはねえ。クリミナロイドは普通のクリミナルよりも其陰險なるの點に於て大いに憎むべきものだ。其クリミナロイ

ドの隊長が政府であるとすれば、政府こそ實に憎むべきしれもの、寄合ひと云はなければならねえ。自分で以て盛に贈收賄を行ひ、盛に其手本を人民に示して置きながら、人民が其模倣をしようと、直に犯罪だと云つて牢にぶち込む。これほど道徳に合はねえ事があるものか。

これを要するにだ。今日のやうにクリミナロイドが滿天下に横行して居るのは畢竟は我が國民の犯罪に對する觀念が間違つて居るからだ。公共的道徳の芽がまだ我國民の腦中に萌して居ねえからだ。舊式の犯罪を訴追することが急であつて新式の犯罪を日常茶飯の事として看過する罪である。法律では十分に之を罰して居るに拘らず、國民の道徳がまだ之を犯罪だと自覺しねえから起る當然の結果で今更致方がないにしろ、少しは眼を覺してくれなければ、國家の前途を如何せんやだ。二本榎事件や鈴ヶ森事件や小名木川事件などの舊式の犯罪に、アンナに騒ぐ好奇心があつたら、政府や會社や政黨のクリミナロイドの悪

行摘發を新聞の記事ばかりに依頼しねえで、自分でどしく摘發訴追して貰ひたい。現今の國民道徳は正に破産の悲境に陥つて居る。消極的に退いて跡始末の清算をするよりも、積極的に進んで國民會社の危急を救ふのが國民の義務ではねえか。おい、早く覺めねえかよ。

### 一の近世的犯罪

萬式は東洋西洋共に女の犯罪と決められてあつて、而も一種の近世的犯罪である。萬引は將來益増加する勢ひがあつても減少する傾きがねえ。併してに萬引と云ふのは所謂白人筋の萬引で、黒人筋の萬引ではねえ。黒人筋の萬引は、今回の赤坂警察署のやうな檢舉に依て、檢舉に檢舉を重ね、何處々々までも嚴重に檢舉しよへすれば、或は絶滅するの期があるかも知れねえ。少くとも減少することがあるかも知れねえ。併し白人筋の萬引は、大抵中流以上の婦

人であるので、店主だつて其筋だつて然う無造作に檢舉する譯にも往くめえから、根絶どころか益増加するはかりだ。加之ならずだ、今日の商品陳列法と今日の社會の組織を以てしては、白人筋の萬引は積極的に將來益増加する一方だ。

昔から女は虚榮の塊と云ふが、今日の様な社會組織を以てしては——、換言すれば、將來女が益交際社會に打て出る様になればなる程、其虚榮は益劇しくなるばかりだ。而して一方には物價の騰貴に伴ふ収入の増加と云ふものがないから、白木屋や三越へ往て、奇麗なものが目の前にちらつけば、つい盗みたくなるのは無理もなからうぢやねえか。此傾向は日本許りではねえ。西洋へ往くともつと劇しい。世界一の勸工場巴里のボンマルシエの監視人が曾て刑事學者ジヨリー氏にコンナ事を語つて居る。こゝに百人の女賊がありとすれば、其内二十五人は何時でも隙さへあれば泥棒をする癖のある常習犯人で他の二十

五人は貧乏の爲己むを得ず泥棒をする女、残りの五十人即ち總數の半分は偏狂者だ。詳しく云へば上流の社會的地位に居り、十分な所得を有する女であるに拘らず、美しい品物を見ると其誘惑に打克つことの出来ねえ代物だと。尤も此五十人の内には真正正銘の竊盜狂を含んで居るは勿論であるけれども、兎に角白人の萬引は西洋へ往くと日本よりも一層劇しいのが事實である。又刑事學者マセー氏の計算によれば、巴里の重なる三十軒の店では、毎日平均五人の萬引が發見する相だ。これを州で計算すると、驚くなかれ其總數十萬に達すると云ふ。而して此等の萬引中九十九人は立派な生活をして居る奴で、貧乏人はタツタ一人だつた相だ。と云ふのは、畢竟實際社會に打つて出る女は、平生贅澤品に接觸し、欲しいくが一心で、つい其誘惑に敵しかねるやうになるからだ。今一つ萬引増加の原因と思はれるのは、婦人に高等教育を授ける結果だ。婦人の高等教育！これは寔に結構なことではあるけれど、其弊害も亦見逃すべか

らざるものだ。西洋でも日本でも、一體男と云ふ奴は高等教育を受けた女を嫌ふのが常だ。高等教育を受けた女は友達にするとか、遊び相手にするとかには有つて來のだが、一家を主宰する世話女房としてはおさんどんの方が餘程増しな位だ。だから、西洋でも日本でも此種の女は縁談が遠い。縁談の遠い結果は、萬年新造や、オールドミスが殖えて來る。而してコンナ徒輩は大抵遊んで居るのだから、勢ひ實際社會の花と歌はれることが多い。實際社會の花と歌はれば勢ひ綺麗な服装をせねばならねえのと、これに伴ふ収入がねえので、つい萬引をするか、淫賣をするより外なくなるのは、尤もな次第でもあらうかい。……と云ふやうな次第で、萬引は將來日に殖し増えるばかりだ。其處へ以て來て、今日の商品陳列方法では、鯉節を猫の鼻先へつきつけるやうなものだから、三越や白木屋は手の可い萬引の養成所だ。近世の女に對して萬引をするなと誠めるのは殆ど出来ねえ相談だ。而して之を煽るのは所謂近世のテパートメ

ントストアである。デパートメントストアの持主は其商品陳列法で、少からず婦人の慾望を煽動し、之によつて多大の利益を占めて居るのだから、よしんば一日に平均五人位の萬引があつても、我慢して居るより外はあるめえ。法律上の語を以て云へば所謂危険の負擔は店主にあつて、萬引にもなければ又社會にもねえ。即ち自業自得で、警察の厄介になる權利がねえ。これを要するにだ、女は美しい反物や、裝飾品に對すると、平常どれほど勤慎な女であつても一種の犯人状者となるのが常だ。近世の犯罪に對する世人の道德標準が一變しねえ以上は、萬引は將來益殖えるばかりだ。ざまを見る。

### 神田の伯母さん

#### ▲發起人の身元調

神田の伯母さんは、昔から時勢を知らず立法家は昔から實際を知ぬと定つてゐるから堪らねえ。舊商法は勿論時勢に適合せぬ様になつたから改正せられたに相違ねえが舊商法だつて然ら馬鹿にしたもんでねえ。舊商法にだつて、美しい點は澤山ある。現今の時勢に適合して居る主義はいくらもある。株式會社の設立に關して、許可主義を採つてゐるのが即ち其一例だ。株式會社の設立に關して、許可主義を採るのは、成程進歩した立法の主義かも知れねえ、併し其主義が實際の情勢に適合して居なければ、いくら進歩して居たつて駄目ぢやねえか、法律は學者や立法家を目安として作るもんぢやねえ。實際を目安として出來て居るんだ。然り、出來て居るんで、出來したもんぢやねえ。英學